ENCYCLOPEDIA NIPPONICA 2001

ENCYCLOPEDIA NIPPONICA 2001

日本大百科全書　20

©SHOGAKUKAN　1988

1988年3月1日　初版第一刷発行

定価 7,800円

編集著作
出版者　相賀　徹夫

発行所　小　学　館

郵便番号　101-01
東京都千代田区一ツ橋2－3－1
振替　東京8－200番
電話　編集・東京03－230－5620
業務・東京03－230－5333
販売・東京03－230－5739

印刷所　凸版印刷株式会社

本　文
(特抄百科用紙)　王子製紙株式会社

口　絵
(特抄アート紙)　三菱製紙株式会社

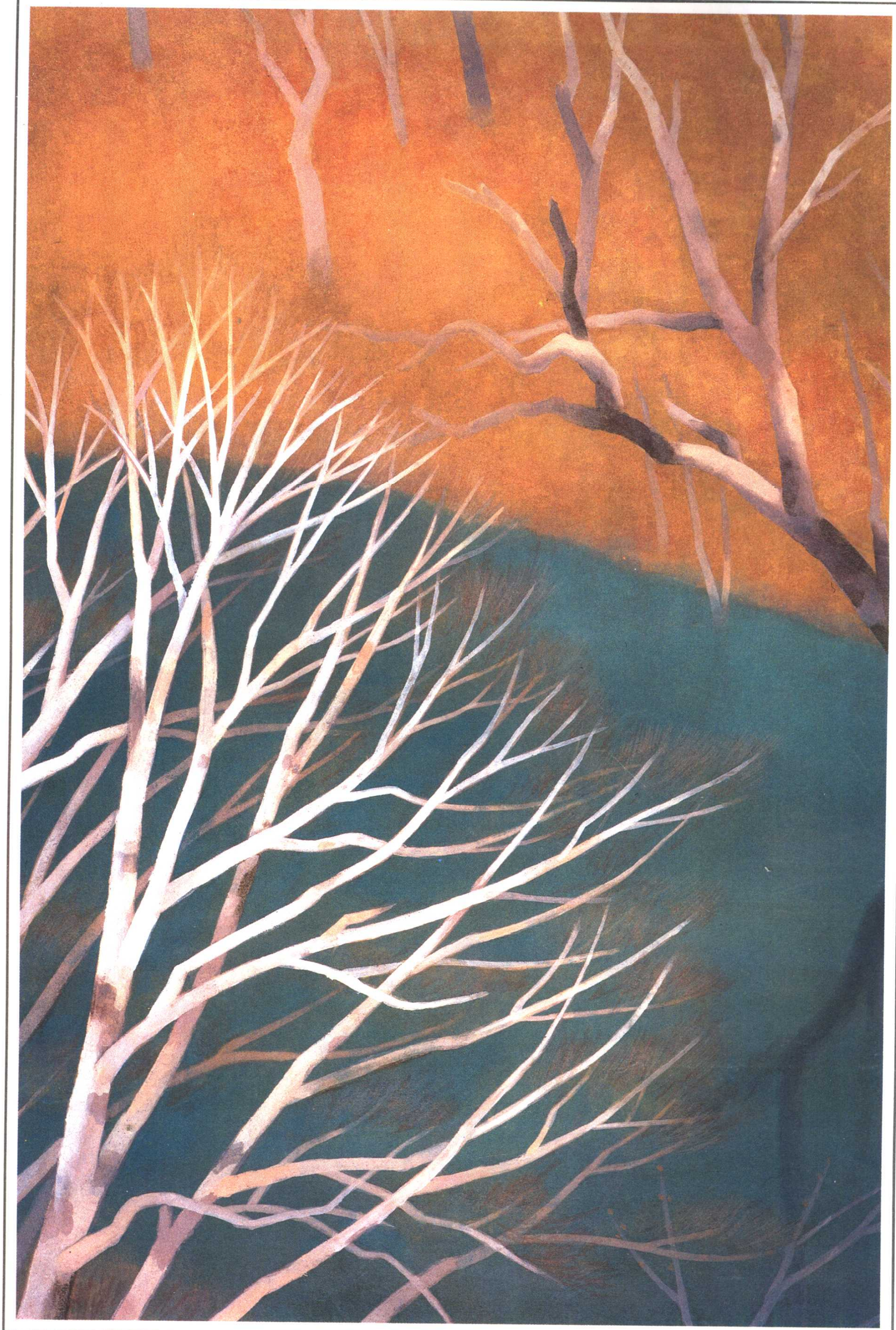
表　紙
(特製クロス)　ダイニック株式会社

製　本　凸版印刷株式会社
若林製本株式会社

＊本書に掲載した日本関係地図は，国土地理院発行の2万5千分の1地形図，5万分の1地形図，20万分の1地勢図，2万5千分の1土地利用図を使用したものです。
＊造本には十分注意しておりますが，万一，落丁・乱丁などの不良品がありましたら，おとりかえいたします。
＊本書の内容の一部または全部を，無断で複写複製(コピー)することは，法律で認められた場合を除き，著作者および出版者の権利の侵害となりますので，その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

Printed in Japan

ISBN4-09-526020-3



東山魁夷『青き淵』部分

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

東山魁夷画『青き淵』
1958年（昭和33）56.0×68.0cm

かさこそと去年の落葉を踏んで、
青い淵のほとりへ下り立った。
樹幹の白が
鮮やかである。

（東山魁夷・文）

動物植物の「名」に思う

日ごろ何気なく使っている動物や植物の名のなかには、実によく特徴を捉えて形容したものが少なくない。古くからの日本人の自然観を反映するものもあるが、時代とともに変わる名も案外多い。明治以降、研学の才人が命名したなかには、まさに「名は体をあらわす」優雅なものや文化の香味を感ずる例も少なくない。

しかし、動物や植物の名、つまり種名についていったん気にし始めると、いろいろな問題をはらんでいることに悩まされる。たとえば食用魚などでも、同じものでありながら関東地方と関西地方とで呼び名が違ったり、成長につれて名の変わる、いわゆる「出世魚」があり、その区別はときに曖昧となる。近年、日本に輸入される魚貝類は非常に多く、それらにつけられた名は、たいがいうまそうな感触がするが、分類学上の問題などで混乱の元になるものもある。一方、昔から子どもに親しまれているメダカには、方言（地方名）だけで五〇〇〇以上も記録され、民俗学、言語学、国語学の研究対象ともなっている。

そもそも「種とは何か」ということは、生物学上の究極的課題の一つである。たとえば、日本やその周辺地域に分布するメダカを詳しく調べると、地域ごとに形態ばかりか、行動や生化学的特徴が微妙に違っていて、それぞれの集団を何という名称で呼ぶのが正しいのか、簡単に結論はつけられない。このような命名に対して「正しい」とか、「正しくない」といった一義的な解答があろうかと、考え込んだりする。世界の共通語である、いわゆる学名をめぐり分類学者が真剣に果てしない論議に情熱を注ぐのは、それなりに十分な理由があるわけである。

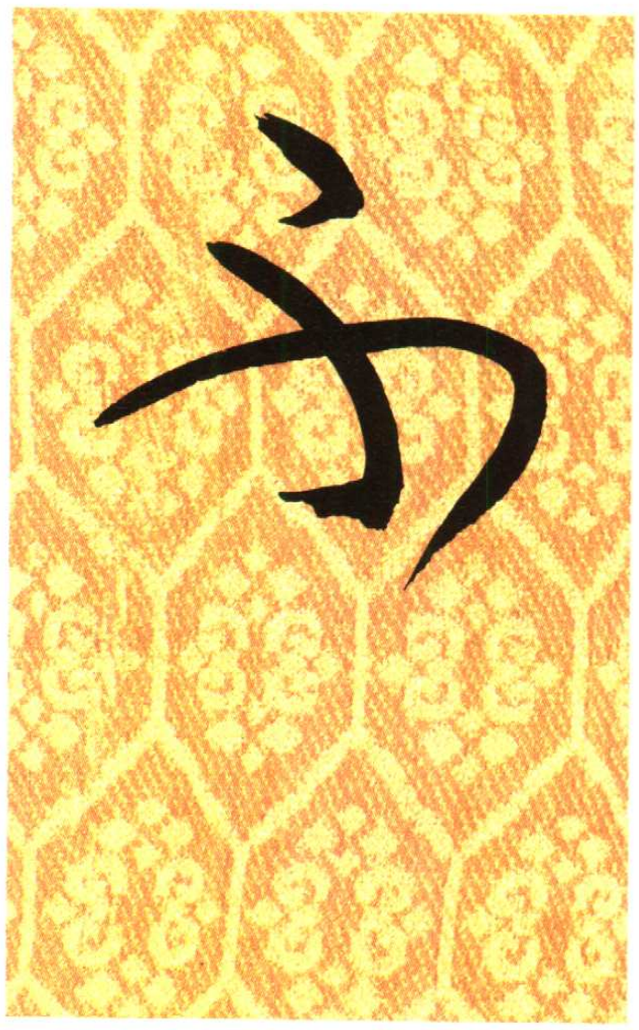
辞書や百科事典で動物や植物の名を取り上げる場合は、別の次元で多くの難題を抱えている。生物はいろいろの面で人間の生活と密接な関係があるから、重要な項目であることは間違いない。一〇〇万を超す種類のなかで何を基準にしてどれを採用するか、また同種に関する異名をどのように扱うか、なども単に生物学の問題だけではなく、社会科学、生活科学、文学、文化など全円的な諸要素を編集の基本に据えなければならない。幕末に日本で最初の英和辞書編集に苦労した堀達之助（一八三―九四）が、魚や鳥や草木の名詞の日本語訳に迷った場合、「魚ノ名、不詳」と割り切って作業を進めたのは卓見であった。最近、日本動物学会が編纂した「学術用語」の標準化の作業に際しても、動物群の名称を含む分類名はもっとも苦労した点であった。

「禁猟獣であるタヌキと知らずにムジナを捕らえた人を密猟者として罪に問えるか」、と似たような裁判が、ツブ貝とバイ貝の間で起こったということも耳新しいことである。今後、自然保護や国際的な野生生物の輸出入に関する条約や法律との関連においても、生物の名とその同定は大きな課題であろう。日進月歩の生物学は、微生物などではバイオテクノロジーにより遺伝子を種間で交換するなど、人為的操作が行われ始めた。このような状況下で、生物の名が法令やガイドラインのなかにもしばしば使われるようになろう。

人間生活と動物や植物の名とのかかわりを、あれやこれやと思いめぐらすと、生物の名はこれからも多面的に深く考え続けなくてはならない興味深い問題である。

江上信雄
（江上信雄）

装　丁　亀倉雄策
本扉／書　青山杉雨（連作書体のうち、明時代、徐渭書法による行草書）
巻頭口絵　東山魁夷
本文五十音題字　木元壽美江



平仮名〔不〕不ふふふふ
片仮名〔不〕ふフフフ

ふ 五十音図第六行第三段の仮名で、平仮名の「ふ」は「不」の草体から、片仮名の「フ」は「不」の初めの二画からできたものである。万葉仮名では「布、不、否、負、部、甫、輔、府、符、浮（以上音仮名）、生、歴、經（以上訓仮名）」などが清音に使われ、「夫、扶、府、文、矛、鶩、歩（以上訓仮名）」などが濁音に使われた。ほかに草仮名としては「ふ（不）」「ふ（布）」「ぬ（婦）」などがある。音韻的には/hu/（濁音/bu/、半濁音/pu/）で、両唇無声摩擦音［ɸ］（両唇有声破裂音［b］、両唇無声破裂音［p］）を子音にもつ。半濁のパ行音が音韻組織のなかに定着してくるのは、中央語では室町時代以降のことである。〈上野和昭〉

府 ふ 市町村を包括する広域の自治体で、都道県と同格である普通地方公共団体。一八六八年（慶応四）の政体書で、府・藩・県の地方行政区画を定め、徳川幕府の直轄地のうち、東京・京都・大阪を府、その他を県と、初めて府県の名称を付したが、両者の間に制度上の区別は設けなかった。一九四三年（昭和一八）の東京都制制定後、京都・大阪の二府になった。↓都道府県制〈高木鉦作〉

符 ふ 公式様文書の一形式。律令制で、上級官司からそれに直属する下級官司に下す文書。これに対して下級官司から上級官司に差し出す文書を解という。太政官から八省・諸国・大宰府に下す符が太政官符（官符と略す）で、律令時代のもっとも重要な政治文書である。また八省から諸寮司および職に下すのが各省符（単に省符という場合は民部省符のことをいう）、各国司から郡司に下す符が各国符で、さらに郡司が下級機関に下す郡符などがあり、いずれも官符に準じた書式をとった。普通の文書は本文のあとに日付を入れ、責任者の位署を書き署名するが、符は責任者の位署・署名のあとに年月日を書く。すなわち日付が最後に書かれるのが特徴である。また符にはそれぞれの役所の官印をかならず捺す。初めは字面全部に官印が捺されたが、鎌倉時代ごろになると、官符の場合、最初と最後の三か所に捺されるようになる。官符で諸国に下すものにはだいたい内印（「天皇御璽」）を捺し、在京の諸司に下すものには外印（「太政官印」）を捺した。平安中・末期ごろから宣旨・官宣旨が、さらに鎌倉中・末期ごろからは院宣・綸旨が官符にかわる重要な国政文書となり、それに伴って官符は儀礼的なものとなっていった。また、各省符・国符・郡符も律令体制の変質のなかで、平安中・末期には消滅した。↓解〈上島 有〉

賦 ふ 中国古典文学の代表的な文体の一つ。辞賦ともいう。賦とは、元来、敷き延べる意。したがって全編にわたり華麗な辞句を連ね、数十句から数百句にも及ぶ長編作品がほとんどを占める。戦国末期の楚国の宮廷文壇からおこり、漢魏六朝時代（前二世紀～後六世紀）をその全盛期とする壮麗な朗誦文学で、対句を主体にしつつ、問答形式を用いたり、長短句を適宜織り交ぜたりするので、『文選』以来いちおうは「散文」として取り扱っているが、押韻や平仄に留意するなど韻文的要素も多分に含んでおり、正確には韻文と散文の折衷様式と考えてよい。中国古代貴族文学の典型的文体。

南方の楚国に発生したこの文学様式が、やがて中央文壇の主流を占めるに至った経緯は、初め宋玉らを中心として楚の宮廷文壇で盛んにつくられていた辞賦が、楚の王室の東遷とともに江淮地方に伝播され、前漢初期、この地方で枚乗、荘忌、鄒陽の三大辞賦作家をはじめ多くの作家の活動が始まり、ついで辞賦を愛好した武帝のとき、枚乗らの作風を継承する司馬相如、枚皐、荘助らが漢室の文壇に大挙招かれたことにより、初めて辞賦が宮廷貴族文学の中枢的地位を獲得したといえる。

代表作家には、前述の諸家に続き、前漢の揚雄、後漢の班固・張衡・蔡邕、魏の曹植・王粲、西晋の潘岳・陸機・左思、東晋の郭璞・孫綽、南朝の謝霊運・鮑照・沈約・江淹、北朝の庾信らがある。賦の修辞が漢魏六朝の詩や駢文に与えた影響も大きい。〈岡村 繁〉

参 小尾郊一著『全釈漢文大系26・27 文選』（一九七四・集英社）

麩 ふ 小麦粉のタンパク質を利用した加工食品。小麦粉に水を加えてこねると粘弾性のあるグルテンが形成される。このグルテンはタンパク質で、これを取り出して加工したのが生麩や焼麩である。麩は中国の宋代に書物にみられ、これが日本に伝わったといわれている。日本では鎌倉時代からつくられ、豆腐などとともに精進料理の重要なタンパク源とされている。

〔製法〕 小麦粉に水（小麦粉の八〇%）を加えてよくこねる。粘りが出てグルテンが形成したら水中でもみ洗いして、デンプンと水溶性の物質を流し出す。残ったグルテンに、糯米粉などを加えて蒸したのが生麩で、グルテンに小麦粉と膨剤を加えて整形して焼いたものが焼麩であ

麩／可食部100g当りの組成分

	生麩	焼麩			
		観世麩	板麩	車麩	
エネルギー	172	325	379	387	kcal
水分	60.0	11.3	12.5	11.4	g
タンパク質	12.7	28.5	25.6	30.2	g
脂質	0.8	2.7	3.3	3.4	g
炭水化物					g
糖質	26.1	56.3	56.5	53.8	g
繊維	0.1	0.6	0.8	0.4	g
灰分	0.3	0.6	1.3	0.8	g
無機質					
カルシウム	13	33	31	25	mg
リン	60	130	220	130	mg
鉄	1.3	3.3	4.9	4.2	mg
ナトリウム	7	6	190	110	mg
カリウム	30	120	220	130	mg
ビタミン					
A レチノール	0	0	0	0	μg
カロチン	0	0	0	0	μg
A効力	0	0	0	0	IU
B_1	0.08	0.16	0.20	0.12	mg
B_2	0.03	0.07	0.08	0.07	mg
ナイアシン	0.5	3.5	3.6	2.9	mg
C	0	0	0	0	mg

注：科学技術庁資源調査会編『四訂日本食品標準成分表』による

る。もみ洗いして流れ出たデンプンは正麩とよばれ、染物などの工芸用糊に用いられる。

〔種類〕生麩は京都の名産で、そのまま棹状にした餅麩以外に、花や葉に整形、着色した紅葉麩、梅麩、桜麩、副材料を加えた海苔麩、粟麩、よもぎ麩、小倉麩（アズキ入り）などがある。以上のものは棹状につくられ、切って用いる。また四季折々の懐石料理や精進料理に用いる細工麩として、手毬麩や、野菜や果物の形にしたものがある。さらに、豆やぎんなん、野菜などを加えた煮物麩や大徳寺の利久揚げ麩など、各店や寺に特有のものがある。京都ではこのように麩が生活に欠かせないものなので、麩作り業者が集まった麩屋町通（中京区）が現存している。菓子では、生麩を生地にして餡を包み、笹の葉でくるんだ麩まんじゅうも京都の名物である。→麩まんじゅう

焼麩は全国的につくられている。形から、棒状に焼いた棒麩、板状の板麩（庄内麩ともいう）、棒に巻き付けて焼いた車麩（ドーナツ状）、小さい球状の玉麩、まつたけ麩、花麩などがある。また、用途から、小型の吸い物麩、棹状の麩を切ったすき焼き麩、そのほか、観世麩（渦巻状で海苔や青海苔を混ぜたもの）など、多くの種類がある。

〔栄養〕麩はコムギのタンパク質がおもな成分で、動物性タンパク質を制限する精進料理にとって重要なタンパク源となっている。小麦タンパクは必須アミノ酸のうちリジンがとくに少ないのでタンパク価が低い。この点は魚、大豆、肉などとあわせると栄養価が高まる。煮物、汁物、揚げ物と用途が広く、タンパク質のよい給源である。とくに消化がよく、脂肪が少ないので乳幼児食や老人食、病人食にも好適である。

〔調理〕生麩は水分が多く保存性がよくない。短時間の保存にも冷却が望ましい。煮物、鍋物、汁物にだしを効かせて薄味に仕上げる。焼麩は一度水に浸けてもどし、水けを軽く絞って用いる。用途は生麩と同じである。〈河野友美〉

分 ぶ 「ふん」ともよぶ。量の種類にかかわらず、ある単位の分量をいう。文字は物を切り分けるという意味。(1)尺貫法の単位として、尺度の場合は一寸の一〇分の一（三・三〇分の一㌢）、質量の場合は一匁の一〇分の一（〇・三七五㌘）をいう。(2)割合を表すのに用いる場合は、一般には一〇分の一、つまり〇・一をいうが、何割何分というときの分は一割（〇・一）の一〇分の一、つまり〇・〇一を表すことになる。また近世以前に用いられた通貨である両の四分の一も分といわれる。〈小泉袈裟勝〉

武 ぶ 古代中国南朝の史書にみえる、五人の倭王（讃、珍、済、興、武）の一人。雄略天皇に擬せられる。→倭の五王

歩 ぶ 中国起源の長さおよび面積の単位。人間の歩幅で二歩分の長さと、二歩分四方の面積に始まる。周代に一歩は六尺と定められ、土地を測る尺度の基準となった。これで測定された面積の数値は土地に定着し、その後王朝の交替とともに公定の尺が変化しても面積一歩の大きさはそれほど変化していない。日本に入った歩は唐制の大尺によったので、中国の歩より大きい。

また、唐制以前に高麗尺の五尺平方の歩があったという記事が『政事要略』にみられるが、高麗尺の一尺は唐大尺の一尺二寸にあたるので、歩の実体は変わらない。実際の検地や測量には、いろいろな条件を見込んだ間尺が用いられたので、表示面積と実面積は一般的には一致しない。間尺は古くは六尺五寸、太閤検地で六尺三寸、江戸時代には六尺とされた。しかしこれも名目だけで、全国各地に六尺五寸四方の歩が定着している。歩はまた坪ともよばれているが、どの時代からそういわれたのかははっきりしない。〈小泉袈裟勝〉

歩合 ぶあい ある数量の、他の数量に対する比の値を表したもの。比の値を小数で表し、小数第一位に割、以下順に分、厘、毛、……という名称をつけて表す。たとえば、一二三の一〇〇〇に対する比〇・一二三は一割二分三厘と表す。小数第二位にパーセント（記号%）という名称をつけて表すのが百分率で、〇・一二三は一二・三%と表す。小数第三位にパーミル（記号‰）という名称をつけるのが千分率で、〇・一二三は一二三‰と表す。一般には割分厘毛などで表したものを歩合という。〈栗原 裕〉

ファイアストン Firestone Tire & Rubber Company アメリカの大手タイヤ・メーカー。歴史は、一九〇〇年にハーベイ・S・ファイアストン Harvey Samuel Firestone（一八六―一九三八）が他人の製造したゴム・タイヤの販売会社として設立したウェスト・バージニア州法人ファイアストン・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニーにさかのぼる。〇二年オハイオ州アクロンの小工場を購入し、〇四年から同工場において自動車用タイヤの生産を開始。一〇年同社の継承会社として設立されたのが、現ファイアストン・タイヤ・アンド・ラバー・カンパニー（オハイオ州法人）である。近年の自動車不況および西欧、日本などとの競争のため、業績はあまり振るわず、タイヤ以外の製品への多角化に努めている。八六年の売上高三五億〇一〇〇万ドル、純益八五〇〇万ドルにとどまった。八五年の売上高構成比は、タイヤ・同関連製品が八九%、金属製品および工業用ゴムが一一%。〈佐藤定幸〉

ファイアンス faïence, fayence フランス 西洋の陶芸用語。イタリアのマジョリカ陶器の影響を受けて、一六世紀以後、アルプス以北で焼成された軟質の錫釉色絵陶器の総称。名称は、一五、六世紀イタリアにおけるマジョリカ生産最大の窯場ファエンツァに由来する。したがってファイアンスの技法は、イタリアのマジョリカ、オランダのデルフト陶器とほとんど同じである。概して胎土は粗く、釉薬はぶどう酒の搾りかすを灰にし、これに鉛と錫の酸化物を加える。焼成温度は一一〇〇度C前後。その主要窯場はフランスのヌベール、ムスティエ、ルーアン、ドイツのニュルンベルク、ハナウ、フルダ、ベルギーのアントワープ（アントウェルペン）、オランダのデルフトなどが知られる。なお、これらの西洋の錫釉色絵陶器のほかに、古代エジプトで焼成されたソーダガラス釉をかけた青釉陶器、タイル、ビーズ、護符なども一般にファイアンスとよんでいる。〈前田正明〉

ファイザー Pfizer Inc. アメリカの医薬品大手メーカー。一九四二年にチャス・ファイザー・アンド・カンパニーの名で設立されたデラウェア州法人が、五一年に同名の親会社（ニュー・ジャージー州法人）と合併し今日に至っている。この親会社自身は一八四九年設立の合資会社の継承会社として一九〇〇年に設立されている。現社名となったのは一九七〇年。八六年の売上高四四億七六〇〇万ドル、純益は六億六〇〇〇万ドルに上る。八五年の売上高構成比は、医薬品六三%、農業用製品一二%、特殊化学製品一〇%、消費者向け製品八%、科学材料七%となっている。同社製品の四二%が海外で販売されているが、海外売上高のほぼ四〇%は、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国でのものである。その売上高が一億ドル以上の外国は、ドイツ、フランス、イギリス、および日本の四か国。日本にある子会社台糖ファイザーはその九五%がファイザーの出資である（残余は台糖）。八五年末、在外完全子会社としてファイザー・インターナショナル銀行を設立したが、その目的はファイザー社の国際金融業務の効率化にあった。〈佐藤定幸〉

ファイザバード Faizabād アフガニスタン北東部、バダフシャーン州の州都。人口九〇九八（一九七九）。標高一二〇〇㍍、コークチャ川沿いの狭い谷に位置する。遊牧民の夏営地シーワ湖地方にもっとも近い町で、オアシス農業の中心地である。一七世紀なかばに、ウズベク人領主により建設され自立していたが、一九世紀中ごろ中央に服属した。現在の主住民はタジク人。〈勝藤 猛〉

ファイザバード Faizabad インド北部、ウッタル・プラデシュ州東部の商業都市。ガガラ川西岸に位置する。人口一四万三一六七（一九八一）。周辺はヒンドスタン平野で年降水量一〇〇〇㍉。米、麦をはじめトウモロコシ、サトウキビなどが栽培される。カーンプル、ワーラーナシ、アラハバードなどの都市を国道、鉄道で結んでおり、農産物の集散、加工業が盛んである。市街地は、ヒンドゥー教寺院のある東部のアヨディア地区と、イスラム教徒によって形成された西部のファイザバード地区に分けられる。〈林 正久〉

ファイサラバード Faisalabad パキスタン北東部、ラホール西方の商工業都市。旧称リャルプル Lyallpur。人口一〇九万二〇〇〇（一九八一）。一八九一年の下チェナブ用水路の開通を契機に、レチュナ・ドアーブの広大な用水路開拓入植地の中心都市として計画的に建設された。イギリス国旗になぞらえた街路形態をもつ。小麦、綿花、米の集散地で、紡績、農産加工、機械、化学などの諸工業が発達する。アジア有数の規模を誇る農業大学がある。〈応地利明〉

ファイサル Fayṣal bn. ʻAbd al-ʻAzīz（一九〇五―七五）サウジアラビアの第三代国王（在位一九六四～七五）。初代国王アブドゥル・アジズ（イブン・サウド）の息子。第二代サウド王の実弟。幼少時から父の統一国家建設事業に参加する。一九二七年ヒジャーズ州副王に就任する。二八年父王の対外関係業務の処理を行う事実上の外相となる。五三年父王の死により兄サウドが国王に即位すると、次期王位継承者に指名され、副首相兼外相に就任した。五〇年代末

サウド王の失政によってもたらされた財政危機を再建する過程で政治上の実権を掌握し、六四年一一月兄王にかわって第三代国王に即位した。その後、イスラム国家としての近代化を図るとともに親米・反共路線を推進した。対アラブ政策では穏健派の主導権確立を図り、六七年の第三次中東戦争後は親米型の「カイロ・リヤド枢軸」を成立させた。七三年の第四次中東戦争では石油戦略を主導し、アラブの団結を図ろうと試みた。七五年三月二五日、甥の凶弾に倒れた。↓サウド家　〈木村喜博〉

ファイサル

ファイズ Faiz（一九一一―八四）パキスタンのウルドゥー語詩人。シアールコトに生まれる。レーニン賞（一九六三）、ロータス賞（一九七五）を受賞し、国際的に著名な詩壇の長老で、社会主義者。彼の詩は一九三六年に始まった進歩主義文学運動の影響を受けながらも古典詩の伝統を現代詩に取り入れ、詩としての美しさを重視しているところに大きな特徴がある。『告訴人の印』（一九三九）、『そよ風の手』（一九五三）など数冊の詩集が出版されている。　〈鈴木　斌〉

歩合制　売上高、契約高に応じて賃金を支払う制度。出来高払制度の一種で比例給ともいう。商業・保険業務などの外勤者に適用される場合が多い。成績にかかわらず一定の支払率を用いる均一歩合制と、成績があがればあがるほど支払率が高くなる逓増歩合制とがある。後者は、高率の支給率を成績全体に適用する全額式と、一定額以上に適用する超過式とに分けられる。成績増加を刺激する反面、賃金収入の変動が大きく、生活保障面からは問題も多い。　〈横山寿一〉

ファイナー Herman Finer（一八九八―一九六九）欧米の政治制度の実証的な比較研究に優れた業績をあげた、イギリスの政治学・行政学者。一九二四年、ロンドン経済学院 London School of Economics で学位をとり、四二年まで同校で講師を務めた。この間にフェビアン協会執行委員、アメリカ社会科学調査会議の招請によるテネシー川流域開発公社行政調査主任、シカゴ大学教授なども務めている。一九三〇年代から四〇年代にかけての行政責任をめぐる、内在的責任論者C・J・フリードリヒとの論争において、議会や裁判所による外在的行政統制すなわち外在的責任論を展開した。主著に『近代政治の理論と実際』*The Theory and Practice of Modern Government* 全二巻（一九三三）、『近代政治の未来』*The Future of Modern Government*（一九四九）がある。　〈三橋良士明〉

ファイニンガー Lyonel Feininger（一八七一―一九五六）アメリカのキュビスム画家。ドイツ系アメリカ人の子としてニューヨークに生まれる。一六歳のとき音楽修業のためドイツに渡ったが、途中で美術に転向。パリで政治漫画を描いていたが、セザンヌやゴッホの作品を見て絵画に専念するようになる。まもなくドローネーと接触し、オルフィック・キュビスムでドイツのゴシック建築をはじめ市街、橋梁、汽船などを描いたりしている。一九一三年ドイツ表現主義の「青騎士」グループに加わる一方、ワイマールのバウハウスに招かれて教えたが、ナチスの台頭後三七年にアメリカに帰った。三九年のニューヨーク万国博覧会で壁画を担当したことは有名。図→ドイツ美術　〈桑原住雄〉

ファイバースコープ fiberscope　高い屈折率をもつ光学ガラス繊維をそれより低い屈折率のガラスでコーティングし、光のロスを防いだ太さ五～二〇ミクロンのガラス繊維を四万～一五万本束ねて作成した管状の光誘導体である。一本の繊維は、芯のガラスとコーティングしたガラスとの間で導入光を全反射させ、一端から入った光はそのまま他端に誘導される。光量の損失は一〇％程度。繊維束の長さは目的に応じていろいろで、管が途中で曲がっても光量の損失は変わらない。光源の像を他端に正確に伝えるため、ガラス繊維束の作成にはドラムを用いて繊維を巻き取り、その一部を固定して切断し、断面を平滑に研磨してレンズを装置する。

一九五六年に内視鏡に応用され、翌年アメリカの胃鏡学会で初公開された。レンズ系の内視鏡では到達できない範囲まで内視鏡の目が拡大されるようになった。工業用としても、盲管やエンジン内部、パイプ管の内壁の検査、テレビカメラなどの画像伝送、さらには宇宙開発や遺跡発掘などにも利用されている。↓内視鏡　↓ガラス繊維　〈大柴三郎〉

ファイバーブレッド fiber bread　穀物の外皮を粉に混入してつくられたパン。先進国には腸癌が多く、栄養疫学的にダイエタリーファイバー（食物繊維）を摂取するのがよいとされ、近年世界的に注目されている。一般にふすまのファイバーはミネラルとビタミンの吸収を悪くするので、パンにどれだけ混入するのがよいかが問題である。ノルウェーとアメリカの共同研究では、ミネラル、ビタミンの消化吸収とファイバーの腸管調整との関連、さらにはパンの食味を損なわない限界を考えて、同質コムギの白粉と全粒粉を半々に混合した粉でつくるのを標準案としている。　〈阿久津正蔵〉

ファイバーボード ⇨繊維板

ファイヒンガー Hans Vaihinger（一八五二―一九三三）ドイツの哲学者。ハレ大学教授。カント、ランゲ、ショーペンハウアーの影響のもとに、プラグマティズム的に解釈された独自の仮構主義（フィクショナリズム）を展開し、それを実証主義的観念論ないしは観念論的実証主義とよんだ。彼によると、思考と認識は生活目的に到達するための手段であるが、直接的な体験の現実を純粋に理論的に認識することはできず、現実との一致という意味での真理を実現することはできない。知識が実際上の価値をもつかどうかが重要であり、論理的に矛盾を犯していても、それは生活のうえで重要な目的を果たしている。知識とは、それが真である「かのようである」ことにほかならず、「われわれの世界の表象形態は仮構の巨大な織物であり、矛盾に満ちている」と唱えた。一八九七年雑誌『カント研究』を創刊し、一九〇五年にはカント協会を設立して、新カント学派の交流と普及に努めた。著書『かのようにの哲学』*Die Philosophie des Als-Ob*（一九一一）など。　〈千田義光〉

ファイフォ Faifo　ベトナム南部、クアンナム・ダナン省の都市ホイアンの旧称。↓ホイアン

ファイユ faille（フランス）もと絹織物の一つで、経畝組織からなり、経には本練り、緯には半練りのものを引きそろえて打ち込んだ経密度の大きい織物。フランスで製作されたもの。現在では化合繊のものがあり、種類も多いが、一般に緯方向にできた畝はグログランより大きいが偏平で、柔軟な織物となっている。用途は、服地または襟飾り地にする。　〈角山幸洋〉

ファイユーム Fayum　中エジプト、ナイル西岸の一地方。カルン湖に流入するナイルの分流ユーセフ運河によって灌漑される盆地で肥沃な農耕地帯。小麦、綿花、果実を産し、羊、家禽の飼育も盛んである。中心都市メディネト・エル・ファイユームの北西のカルン湖周辺の数段の段丘は、太古からの湖の水位の変遷を示し、新石器時代からギリシア・ローマ時代にかけての遺跡が多い。とくに新石器時代の集落址は、エジプト最古の農耕文化の一つとして重要である。住居は簡単な炉址を残すだけだが、穀物貯蔵用の径二メートルの浅い竪穴があり、エンメル小麦、大麦などの栽培の痕跡を示す。すでに亜麻糸からリネンも織られていたらしい。木柄にフリント細石器をはめた石鎌、石灰岩製鞍状石臼、磨製石斧のほかに、石鏃、骨製の銛もみられ、狩猟、魚労も営まれていたらしい。土器は、壺、皿、鉢などの初歩的な容器で、ほかにパレット、ダチョウの卵殻製のビーズなど、わずかな服飾品も出土した。沼沢地だったこの地方は、中王国時代の第一二王朝の諸王が、第一、第二段丘を干拓し、豊かな耕地とした。同時代には都もこの地に移され、王墓も残した。ハワラにあるアメネムハト三世のピラミッドなどが名高い。プトレマイオス二世治下に新たに灌漑施設が整備され、第二、第三段丘に多くの小都市が営まれた。これらの遺跡から出土したパピルス史料は、当時の文化や経済の様相を詳細に伝えている。　〈鈴木まどか〉

ファイリング・システム filing system　各種業務に必要な通信文書やその他経営の諸資料を、後日参照する必要が生じた場合に、速やかに検出し、利用しうるよう系統的に整理し、保管・保存する制度。整理すべき資料の分類と記号の付与、分類記号に従う整理、保管文書の貸出しとその返還の追及、保管から保存への切り替え、保存文書から廃棄、などに関する一連の手続からなる。分類記号に従って、ホルダー（紙挟み）に入れて、ファイリング・キャビネットに保管する整理方式（バーチカル・ファイリング）も多いが、近年、保管場所の節減のために、壁面を有効に使い、書架式整理棚を用いた並列式の整理法（ホリゾンタル・ファイリング）も増えている。　〈玄　光男〉

ファイン・ケミカル fine chemical　染料、医薬品、香料、農薬など高付加価値の精密化学製品を製造する工業。今日の化学工業は

石油化学工業に代表される大規模な装置産業で、コンビナートを形成し、少品種多量生産を行い、コスト・ダウンを目的とする経営がなされている。製造工程は主として集中制御によるフロー・システムが採用され、反応を生成する諸装置はパイプによって連結することにより、連続的に最終製品を製造する形態をとっている。このため生産に従事する人員は制御装置の監視要員や保安要員など少数の人員で操業しうるが、反面、広大なプラントの建設用地と巨大な装置のための多額の設備投資を必要とし、そのためヘビー・ケミカル Heavy chemical とよばれている。製品は合成樹脂、合成繊維、合成ゴムなど衣食住のあらゆる分野にわたって天然素材に代替する原材料が生産され、多彩化した消費財を提供することにより戦後の国民経済の高度化に多大の貢献を果たしてきた。しかし石油危機以降、国民の間に商品の浪費に対する反省と環境汚染に対する批判が生まれ、「かけがえのない地球」の資源やエネルギーの有効利用を図る考え方が醸成されてきた。ファイン・ケミカルはこのようなヘビー・ケミカルに対するアンチテーゼとして用いられてきた。

ファイン・ケミカルの特徴は、①製品が多品種で少量生産される。②生産はきわめて多種、複雑な工程により付加価値を高めることを目的とし、操業は主として装置のバッチ・システム化による非連続工程を採用する。③操業には多数の人員が必要で、とくに基礎反応の研究など高度の技術者を必要とする。④巨大な装置を用いないので、プラント用地に広大な面積を必要としない。⑤小資本で操業でき、原材料の浪費抑制に貢献し、価格維持が容易で収益性が期待しうるなど、資源に乏しいわが国の化学工業の将来性に多くの示唆を与えるものとして近年注目を集めている。

〈青木弘明〉

▽永井芳雄他著『増補　ファインケミカルズの化学と工業』全三巻（一九八一・化学工業社）

ファインマン

▽飛田満彦・内田安三著『ファインケミカルズ』（一九八三・丸善）▽シーエムシー編・刊『ファインケミカル事典』（一九八三）

ファイン・セラミックス fine ceramics　古典的な窯業製品（セラミックス）と異なり、原料を精製・調合してつくられる緻密（ちみつ）で精細な高性能セラミックスの通称。ニューセラミックスともよばれる。↓セラミックス

ファインマン Richard Phillips Feynman（一九一八―　）　アメリカの理論物理学者。ニューヨーク市生まれ。マサチューセッツ工科大学卒業。プリンストン大学大学院をJ・A・ウィーラーのもとで終え、一九四二年理学博士となる。その後プリンストン大学で、さらにロス・アラモス研究所開設とともにそこへ移り、第二次世界大戦終了までマンハッタン計画（原爆開発研究）に参加。戦後コーネル大学助教授。五〇年からカリフォルニア工科大学教授として現在に至る。朝永振一郎（ともなが）、シュウィンガーとともに、量子電磁力学の基礎研究に対し六五年ノーベル物理学賞を受けた。彼が開発した径路積分による量子力学の定式化は、彼自身により物性物理の問題へ巧みに応用され、また場の理論の展開で重要な役割をしている。直観的な物理的描像から出発して理論を展開し、豊富な結果を導出している。六〇年から二年間のカリフォルニア工科大学での講義録は、物理学への入門書として定評がある。

〈藤井寛治〉

▽ファインマン著、富山小太郎他訳『ファインマン物理学Ⅰ～Ⅳ』（一九六七～七一・岩波書店）▽同著、江沢洋訳『物理法則はいかにして発見されたか』（一九六八・ダイヤモンド社）

ファウスト Faust　一五、一六世紀のドイツに実在した人物ゲオルクまたはヨハネス・ファウストの名前と結び付いたファウスト伝説、およびとくにゲーテの悲劇『ファウスト』の主人公の名。また「ファウスト的人間」などのようにドイツ民族の特質を言い表す類型的概念としても用いられる。↓ファウスト伝説

ゲーテの悲劇『ファウスト』は、ファウスト伝説を素材にしているとはいえ、それと厳密に区別されなければならない。この作品の執筆開始は『若きウェルテルの悩み』（一七七四）とほぼ同じ時期にさかのぼり、ワイマール移住直後の一七七五年一二月に、ゲーテは早くもその一部を友人たちの前で朗読している。その後一〇年を経てローマに滞在中、ゲーテは作品を完成しようとして果たさず、九〇年に『ファウスト断片』として印刷に付してしまった。『ファウスト』全編の第一部が出版されたのは一八〇八年のことであり、第二部は作者の死後（一八三二年三月二二日没）、その年の秋に初めて公表された。ゲーテがもっとも苦心したのは、悪魔に魂を売って悲惨な最期を遂げる伝説上のファウストにいかにポジティブな近代的性格を賦与するかということであった。また第一部の個性的特徴と第二部の類型的特徴を内容・形式の面でいかに両立させるかということであった。

ゲーテがこうして六〇年の歳月を費やして完成した悲劇『ファウスト』には、「献詩」「舞台での前戯」「天上の序曲」という三つの詩的な序章があり、これらのあと第一部の小世界、第二部の大世界において主人公の悪魔メフィストフェレスとの遍歴の旅が繰り広げられる。認識と活動の不一致に悩む近代人ファウストは「世界を奥の奥で統（す）べているもの」を究めえないことに絶望し毒杯を仰ごうとするが、復活祭の鐘の音で呼び覚まされた幼時の追憶によって自殺を思いとどまる。そしてその後メフィストフェレスを道連れに、市民の娘グレートヒェンとの恋愛、皇帝の居城での宮廷生活、古代ギリシアの神話的世界、専制君主としての干拓事業などを次々に体験していくのである。悪魔と結託しているためつねに罪過を犯さざるをえないファウストが最後に救われるのは、「よい人間はたとえ暗い衝動に促されても、正しい道を忘れることはない」という主のことばにみられるようなゲーテの偉大なオプティミズムのためである。永遠に努力するファウスト的人間がヨーロッパ人、とりわけドイツ人の原型であるというような見方はこのような人間観に根ざしているが、「ファウスト的衝動」の過大評価は、二〇世紀前半のドイツ現代史に多くの禍根を残すことになった。

〈木村直司〉

〔音楽〕 ゲーテの『ファウスト』を基にした音楽作品は数多く、それらの大半は一九世紀中期に生み出されている。なかでも代表的なのは、フランスのグノーが一八五九年に完成した同名のオペラ（全五幕）である。バルビエとカレの台本によるこの作品は原作の第一部に基づき、美しい旋律と色彩豊かで洗練された管弦楽法により、フランス・オペラを代表する名作の一つに数えられている。マルガレーテの歌う「宝石の歌」はとくに有名で、のちに付け加えられたバレエ音楽も人気が高い。またアリゴ・ボイトが自らの台本を基に一八六八年に完成したオペラ『メフィストフェレ』は原作の第一部と第二部によるが、歌劇化にあたって多少手が加えられている。ワーグナーの影響を受けた効果的な舞台づくりは、ベルディ以後のイタリア・オペラに新しい方向を示したといえよう。なおオペラとしては、ほかにフェルッチョ・ブゾーニが未完のまま残し、弟子によって一九二五年に完成された『ファウスト博士』があり、またベートーベンもこの作品に基づいた歌劇を構想していたが、実現せずに終わった。

歌劇以外にも『ファウスト』による作品は数多い。『ファウストの却罰（ばつ）』は、ベルリオーズが一八四六年に完成した独唱、合唱と管弦楽のための「劇的物語」（作品二四）で、原作のフランス語訳を台本とし、「ハンガリー（ラコッツィ）行進曲」などの有名な管弦楽小品を含む。『ゲーテの〈ファウスト〉からの場面』は、ローベルト・シューマンが一八五三年に完成した合唱と管弦楽のためのオラトリオ。『ファウスト交響曲』はリストが一八五四年に作曲した三楽章からなる交響曲で、第一楽章「ファウスト」、第二楽章「グレートヒェン」、第三楽章「メフィストフェレス」と、各楽章に登場人物の性格があてられ、標題音楽的性格を強めてい

ファウスト
ゲーテの『ファウスト』より，「空飛ぶメフィストフェレス」。1828年，フランスの画家ドラクロワの挿絵入りで刊行された版で，商業的には失敗だったが，ゲーテ自身が挿絵を賞賛したという。東京　早稲田大学図書館

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

る。また、マーラーが交響曲第八番変ホ長調「一千人の交響曲」（一九〇六）の第二部テキストに、終幕の場を用いていることも珍しい例としてあげられよう。〈三宅幸夫〉

▣道家忠道訳編『ファウスト　その源流と発展』（一九七四・朝日出版社）▽小塩節著『ファウスト――ヨーロッパ的人間の原型』（一九七三・日本ＹＭＣＡ同盟出版部）▽木村直司著『ゲーテ研究』正続（一九七六、八三・南窓社）▽『ファウスト』全二冊（相良守峯訳・岩波文庫／手塚富雄訳・中公文庫）

ファウストゥス博士　――はかせ　Doktor Faustus　ドイツの作家トーマス・マンの伝記体の長編小説。「一友人によって物語られたドイツの作曲家アードリアーン・レーバーキューンの生涯」という副題をもつ。一九四七年刊。天才的な作曲家である主人公は、意識的に梅毒に感染し、病気の進行につれて断続的に現れる高揚状態を利用して、創作の行き詰まりを打開しようとする。この筋立ては、超能力と引き換えに二四年後には悪魔に魂を譲り渡す契約を結ぶというファウスト伝説の二〇世紀版であるが、小説の背後には現代芸術の危機、またナチズムという怪物を生み出した祖国ドイツの精神的基盤との、作者の深刻な対決がある。〈片山良展〉

▣円子修平訳『ファウストゥス博士』（『新潮世界文学35　トーマス・マンⅢ』一九七二・新潮社）

ファウスト伝説　――でんせつ　一五、一六世紀にドイツに実在したというゲオルク・ファウストという錬金術師と、伝説的な魔術師ヨハネス・ファウストに由来するという伝説。このファウストという人物は、宗教改革者のルターやメランヒトンによってその悪魔的な能力を非難されている。スイスのバーゼルでファウストと食事をしたというヨハネス・ガストは、彼が連れている犬や馬は魔物であり、最後は悪魔によって絞め殺された、と『説教集』（一五四八）に記している。ファウストの名が後世に残るものとなったのは、無名の作家によるファウストの伝記が、一五八七年フランクフルトでヨハネス・シュピースによって『ファウスト・ブッホ』として上梓されたことによる。

ここに描かれたファウストは、ワイマール近郊に生まれ、ウィッテンベルクで神学を修めたが、やがて神を捨て、悪魔メフィストフェレスと死後の魂を売る契約をし、その代償として二四年間（一説によれば二四時間）の猶予をもらう。その間現世の逸楽をほしいままにするが、やがて契約の期限の切れるとき悔恨の涙に暮れながら死ぬ。

このテーマは、宗教改革の時代に、神に反逆し自我に目覚める人間の姿として大いに珍重され、イギリスの劇作家マーローは『フォースタス博士』（一五八八年上演、一六〇四年出版）で、悪魔に身を売った碩学の悲劇を、トロイのヘレナとの交情や、断末魔の苦しみを通じて表現している。ドイツの文人ゲーテは一七七五年ごろ『ファウスト』を書き始め、一八三二年の死の直前に完成したという。ここにはゲーテの、人生の意味を問う近代人の苦悩の軌跡がみごとに表示されており、悪魔メフィストフェレスに魂を売ったファウストの幻滅と喜悦とが交錯している。第一部での美女グレートヒェン（マルガレーテ）との悲恋は圧巻であり、第二部ではヘレナとの結び付きなどをめぐり晦渋な展開をみせるが、最後に魂が天国に至る点ロマン派的志向が強い。↓ファウスト　〈船戸英夫〉

ファウナ　fauna　ある一定の場所あるいは同一の環境にすむ動物の全種類をいう。動物相ともいい、フロラ flora（植物相）に対応する語。種類相互の関係や環境との関係といった意義は含まれず、また動物の個体数や優占度といった量的評価も含まれていない。場所、環境の範囲は任意に設定でき、オーストラリア大陸のファウナ、能登半島のファウナといった例は、大小の地理（場所）的基準によるファウナである。河川動物相や森林動物相は、環境あるいは生息場所を基準にしたファウナの例である。

昆虫相（昆虫ファウナ entomofauna）、プランクトン相 plankton fauna というように、特定の分類群や生活形についてのファウナを部分ファウナという。動物地理区の設定には、急激なファウナの変化が利用されている。ファウナを明らかにすることは、生物群集や生態系にかかわる生態学にとって重要である。しかし、主として分類学上の困難さから、小地域についてさえ全動物のファウナを知ることはきわめてむずかしい。〈谷田一三〉

ファウヌス　Faunus　古代ローマの森の神。その名は favēre（恵みを与える）と同じ語源と考えられ、家畜と農作物を保護する神であった。家畜の神としてはイヌウス Inuus の呼称をもつ。またファウヌスは、預言の力を有していたことからファトゥウス Fatuus ともよばれたが、これは森の中の正体不明の声をこの神のものとしたためで、fari（話す）と関連していると考えられている。なお、家畜と畑の女神ファウナ、預言の女神ファトゥアは、いずれもこの神の女性形である。古くより二月一五日に行われたローマのルペルカリア祭は、農作物と家畜と人間の多産を祈る祭礼であるが、おそらくその祭神はファウヌスであったと推察される。ローマの伝説によれば、ファウヌスはラティウムの古王であったといい、のちにはギリシア神話のパンと同一視され、ギリシアのサテイロスに似た存在となった。〈伊藤照夫〉

ファウラー　Sir Ralph Howard Fowler（一八八九―一九四四）　イギリスの理論物理学者。一九三二年ケンブリッジ大学数理物理学教授。統計力学の原理とその物性への適用についての業績、とくに統計力学におけるダーウィン－ファウラーの方法で著名である。またパナールと共同で水および氷の分子論的構造の研究を行い（一九三三）、Ｘ線解析の結果から液体の水の中での最近接分子配置に関する正四面体構造を初めて提示、これは今日の水の液体構造研究の出発点となった。著書『統計力学』*Statistical Mechanics*（一九三六）およびグーゲンハイム E. A. Guggenheim との共著による『統計熱力学』*Statistical Thermodynamics*（一九三九）は名著として知られている。〈常盤野和男〉

ファエドルス　Phaedrus（前一五〇ごろ―後五〇ごろ）　古代ローマの寓話詩人。マケドニア生まれの奴隷で、アウグストゥス帝によって解放された。イアンボス詩形による彼の『寓話集』はいわゆる「イソップ物語」のほかに、彼自身が考察した笑話、逸話、時代を風刺する小話なども含む。今日では、近世になって別の写本に発見されたもの、散文に書き換えられて中世に愛読されたものも加えられている。〈中山恒夫〉

ファエトン　Phaethon　ギリシア神話の太陽神の子。普通、父はヘリオスとされるが、後代になると、たとえばオウィディウスではアポロンとなっている。ホメロスでは、この名は「光り輝く」を意味する形容詞として太陽について用いられる。成人したのち初めて父の名を知ったファエトンは、世界の果てにいる父を尋ねて行く。太陽神は、父である証拠にどのような願いでもかなえてやろうと約束したので、ファエトンは太陽神の二輪車に乗ることを願った。太陽神は、その危険から、ほかのことを願うよう彼を諭すが、結局約束どおり許してしまう。ファエトンには四頭の馬を御すだけの力がなかったので、二輪車はたちまち太陽神の教えた太陽の軌道を外れ、狂奔する太陽の炎は地上を焼き払った。ついにゼウスは雷霆をファエトンに投げつけ、彼はエリダノス河に撃ち落とされて死ぬ。彼の姉妹たち（ヘリアデス）は、彼の死骸を葬ったのちも嘆き悲しみ、ついにポプラの木と化した。その流れ落ちた涙は琥珀になったという。物語は、アイスキロスやエウリピデスによって劇化されたが、いずれも散逸して伝わっていない。〈伊藤照夫〉

ファエンツァ　Faenza　イタリア北東部、エミリア・ロマーニャ州ラベンナ県の都市。人口五万五一六七（一九八一）。ラモーネ川沿いに位置し、エミリア街道とファエンティーナ街道の結節点をなす。一五世紀以来マジョリカ陶器の主産地として有名。一九〇八年に国際陶器博物館が建てられ、多くの作品が陳列されている。主産業は農業であるが、最近では天然ガスの産出が重要度を高めつつある。〈堺　憲一〉

ＦＡＯ　ファオ　⇨国連食糧農業機関

ファーカー　George Farquhar（一六七七―一七〇七）　イギリスの喜劇作家。アイルランド生まれ。ダブリンのトリニティ・カレッジ中退後俳優となるが、舞台で同僚を傷つけたため廃業、ロンドンに出る。処女作『恋と酒瓶』（一六九八）の成功をきっかけに創作を続け、『徴兵官』（一七〇六）、『伊達男の策略』（一七〇七）により文名を確立するが早逝。コングリーブに代表される都会風軽妙洒脱な風習喜劇に比べ、地方色豊かでヒューマンな作風を特色とし、王政復古期の最後を飾った。聖マーチン・イン・ザ・フィールズ教会に眠る。〈野崎睦美〉

ファーガソン　Adam Ferguson（一七二三―一八一六）　イギリスの歴史家、道徳哲学者。スコットランドのバースシャー生まれ。従軍牧師を務めたのち、エジンバラ大学教授。リード、ヒューム、デューガルド・スチュアート、アダム・スミスらと親交があり、スコットランド学派に属す。代表作『市民社会史論』（一七六七）は、人間と社会の相互関係を重視する視点にたって、人間が野蛮な状態から政治的、社会的に洗練されてゆく過程を描いている。しかし、方法としては経験主義的であり、また、社会発展のダイナミズムへの視点を欠き、この点で一八世紀歴史家の典型ともいえる。倫理学では、社会

武悪　上意討ちにしたはずの武悪（左，茂山千五郎）に出会いとまどう主人（中，茂山千之丞）と，その場を取り繕う太郎冠者（右，善竹圭五郎）

発展の要素として自由な精神による公平な競争を認める。著書はほかに『道徳学と政治学の原理』（一七九二）などがある。〈小池英光〉

ファーガソン James Fergusson（一八〇八―八六）イギリスの建築史家。スコットランドのアイルに生まれ、元来はインド藍の栽培商であった。一八二九年カルカッタ（インド）で商業活動を営み始めてから、遺跡、古代建築物に強い関心をもった。三四～四五年のインド半島全域踏査は、古代インド建築史の本格的な究明として大きな功績を残している。こののちイギリスへ戻り、インドを中心にした東方建築と西洋建築の歴史的な比較研究を展開、数多くの論文、図集を著し、王立アジア協会、王立建築家協会の要職を歴任した。〈村松貞次郎・藤原恵洋〉

武悪　狂言の曲名。大蔵流では大名狂言、和泉流では雑狂言。不奉公者の武悪（シテ）を討つよう主人に命じられた太郎冠者は、太刀を受け取り討っ手に向かう。冠者は、武悪に川魚の進上を勧め、生け簀に入ったところを後ろからだまし討ちにしようとするが、友情が先だって斬れず命を助ける。武悪を討ったと偽りの報告を受けた主人は、冠者を連れて東山へ赴く。一方、武悪も助命のお礼参りに清水観音へやってきて、鳥辺野のあたりで主人にばったり出くわす。武悪は窮余の策に幽霊を装って現れ、あの世で大殿様に会ったなどとでたらめを述べる。その大殿様の注文と称して、怖がる主人から太刀、小さ刀、扇を預かったうえ、あの世に主人を同道するよう頼まれたと脅し、逃げる主人を追い込んでいく。緊迫した前半とユーモラスな後半は異質であるが、これを統合して一曲に仕立て上げている構成は巧みである。『今昔物語集』巻一七―四の霊験譚や『奇異雑談集』巻二―七の怪異譚を、この曲の原拠とみる説がある。〈林　和利〉

ファクシミリ facsimile　文字、図形、写真などを電気信号に変換して遠隔地に電送し、相似な記録を得る通信手段、またはその装置。写真電送、写真電信、模写電送、または略してファックス fax ともいう。

〔歴史〕 ファクシミリそのものの歴史は古く、一八四三年イギリスのベイン Alexander Bain による発明にさかのぼり、電信に次ぐ古い電気通信手段である。日本では一九二八年（昭和三）に、丹羽保次郎らによってNE式写真電送装置が開発されている。ファクシミリは当初は、新聞ニュース写真の電送、警察・国鉄などの指令通信、気象図の電送などの特定分野に限られ、一般に普及するには至らなかった。

しかし、一九七二年（昭和四七）の公衆電気通信法の改正、いわゆる回線開放により、電話網を用いたファクシミリ通信が可能となり、一般企業の事務用として急速に普及し始めた。最近では個人商店や一般家庭にまで広範に使用され、八四年には全国の設置台数が七〇万台を突破した。また、八一年からは、一度に複数の端末に送信できる「同報機能」や、相手が通話中の場合でも自動的に何度か送信を繰り返す「再呼機能」などのサービスが受けられる「ファクシミリ通信網サービス」も開始されている。

〔原理〕 送信原稿を走査して、電気的な信号に変換しながら画素に分解し、これを電送するとともに、受信側では送信側と同期をとりながら順次組み立て、記録画を得るものである。

走査方法としては、機械的走査方式、電子的走査方式があるが、近年は帯域圧縮技術などの採用による高速走査が可能で、機械的な故障も少ない電子的走査方式が積極的に採用されている。電子的走査は、撮像管などの電子管走査方式と、半導体素子など使用する個体走査方式に大別されるが、近年は個体走査方式が用いられていることが多い。

受信側で復原された電気信号は、記録のために別の形のエネルギーに変換され、その刺激によって記録媒体上に画像が再現される。エネルギー別に記録方式を分類すると、①電気エネルギーを利用する静電記録、放電記録、電解記録、通電感熱記録、②光エネルギーを利用する電子写真記録、③熱エネルギーを利用する感熱記録、熱転写記録、④その他のインクジェット記録などがある。

〔分類〕 国際電信電話諮問委員会（CCITT）ではファクシミリの電送などについて、世界の標準として次のように分類している。

①グループⅠ（G1）　電話回線を用い、送出する信号の帯域を圧縮する手段をもたない両側帯波変調を使用してA4判の原稿を約六分で電送する（六分機）。

②グループⅡ（G2）　電話回線を用い、符号化または残留側帯波変調などの帯域圧縮技術を使用してA4判の原稿を約三分で電送する（三分機）。

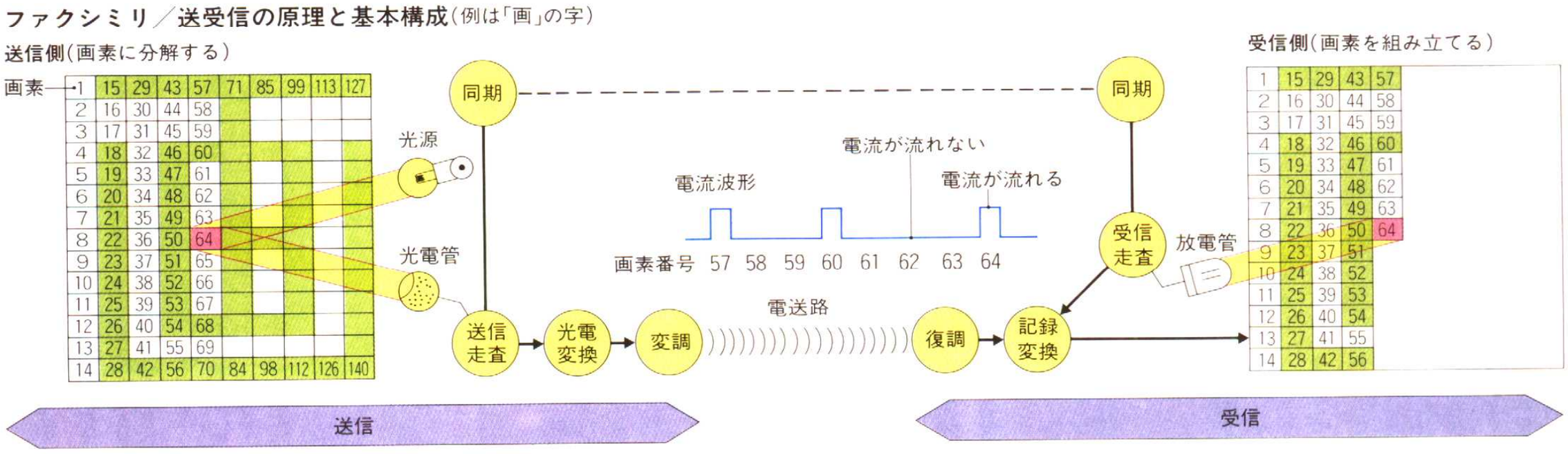
③グループⅢ（G3）　電話回線を用い、ファクシミリ信号の冗長性を抑圧する手段を用いてA4判の原稿を約一分で電送する。変調方式として帯域圧縮技術を使用してもよい（一分機）。

④グループⅣ（G4）　主として公衆データ網を用いるディジタルファクシミリで、冗長度抑圧符号化機能を有し、エラーフリー通信が可能である。〈坪井　了〉

ファクタリング factoring　一般的には、債務者の顧客に対する多数債権を、担保のために債権者が譲り受けることをいう。しかし、実際上では、このファクタリング業務の内容は多岐にわたっているようである。本来あるべき姿のファクタリングは、ファクタリング業務を営む者が、その顧客の有する現在および将来の売掛債権を、顧客に対する償還請求権なしで一括して買い取ることにより、顧客に資金を供与し、それに伴って、顧客の直面する経営経済上の諸問題についての情報を提供し、買い取った売掛債権の管理・回収をすることであるとされている。〈竹内俊雄〉

ファクチス factice　植物油や魚油を加硫して得られるゴム状物質をいう。ゴム代用物の意味でサブ（substitute の略）ともよばれる。あまに油、菜種油、綿実油、大豆油などに塩化硫黄と石灰あるいはマグネシアを反応させてつくる白サブと、これら油に空気を吹き込んで加熱したのち硫黄を加えて一六〇～二〇〇度Cに加熱してつくる黒サブがある。白サブは硫黄を

ファクシミリ／送受信の原理と基本構成（例は「画」の字）



六～八％含み、消しゴム用配合剤に使われ、黒サブは硫黄を一五～二〇％含み、工業用ゴム配合剤に使われ加工性を向上するとともに製品の表面を滑らかにする。〈福田和吉〉

ファクファク Fakfak インドネシア、西イリアン（ニューギニア島西部）の西端、ベラウ湾入口の南半島南岸に位置する港町。良港で水深く、植民地時代から地方行政の中心地であった。町の中心は港を見下ろす高さ八〇㍍の丘の上にある。マレー人をはじめ、アンボン人、中国人が住み、コプラ、樹脂、水産物などを集散する。〈別技篤彦〉

ファゲ Émile Faguet（一八四七―一九一六）フランスの批評家。ジャーナリストとソルボンヌ大学教授を兼ねており、モラリスト的見地から多数の文学的・政治的著作を残した。代表作には、一六世紀から一九世紀に至る文学的肖像のギャラリーともいうべき、各世紀別の『文学研究』四巻（一八八五～九〇）、ついでそれを拡大・再構成した『フランス文学史』二巻（一九〇〇）があげられる。とりわけ一七世紀の部分は、斬新かつ大胆な見方の設定と、有機的配列・構成の巧みさのおかげで、いまなお通読に堪えうる。また彼のモラリスト的本領を発揮した『十戒』*Les Dix Commandements*（一九〇九～一一）は、いかめしい題名とは対照的に、軽妙な人生論風エッセイの集成で一〇冊からなる。〈松崎芳隆〉

ファーゴ Fargo アメリカ合衆国、ノース・ダコタ州東部、レッド川に臨む同州最大の都市。人口六万一三〇八（一九八〇）。河港、および鉄道交通の中心をなす。大規模農業地帯の中央に位置し、小麦、ウシを主とした農畜産物の大市場・集散地として重要で、農業機械、機具、食品などの工業が発達する。ノース・ダコタ州立大学は、農業関係の研究・調査で広く知られる。一八七一年にノーザン・パシフィック鉄道の開通により町が創建された。〈作野和世〉

ファゴット fagotto ダブルリードの気鳴楽器の一種。バスーン bassoon ともよばれる。円錐管を基本とする木管楽器で、通常B_1～F_5の音域をもち、木管群の低音楽器としてオーケストラで重要な役割を果たしている。

管の全長は二・五四㍍だが、二本の管を束ねたような形にして楽器自体の長さは一・三㍍ほどになっている。オーボエやイングリッシュ・ホルンよりも大型のダブルリードを金属製の吹き込み管（クルック）に取り付け、これを本体につなぐ。クルックにはごく小さい孔が本体に近いほうにあけてあり、これによってオーバーブローを容易にしている。現在の楽器は、本体を四つに分解できる。クルックのつくほうから順に、ウィング・ジョイント、ダブル・ジョイント、ロング・ジョイント、ベル・ジョイントである。ウィング・ジョイントは、指孔のうち三つを斜めにあけるために管壁の一部が分厚くなっている。これは、垂直にあけると指が届かなくなるためである。ダブル・ジョイントは二本の管が通っており、その二本が下端で金属のU字管によってつながれている。そしてその上から、U字管を保護するために金属のカバーがつけられている。この二つのジョイントにキーが集められており、左手でウィング・ジョイント、右手でダブル・ジョイントの指孔とキーを開閉する。多くのキーが両親指に割り当てられている。管の内径は徐々に大きくなり、ロング・ジョイント、ベル・ジョイントへと広がっていく。本体の木はカエデを用いるのがもっとも一般的である。

この種の楽器はかつては五種類あったが現在では二種類で、前述のファゴットのほかにコントラ・ファゴットがある。これはファゴットよりも一オクターブ低い音域の楽器で、基本構造はファゴットと同じだが、さらに長い管を必要とするため、操作しやすいように何重にも折り曲げた形になっている。〈卜田隆嗣〉

ファゴット

ファサード façade fassade 建築用語。もともとフランス語であるが、各国語で広く用いられている。建物の正面の立面をいうが、装飾的な面、堂々たる面などデザインとして重要な面であれば背面や側面にも用いられる。古典ゴシックのランス大聖堂のようにファサードの造形が内部空間を率直に表現する場合もあれば、盛期ルネサンスのアルベルティによるマントバのサンタンドレア教会堂のようにファサードが内部空間との有機的なつながりを欠き、ファサードのためのファサードとして造形される場合もある。個体としての建築設計と街路の造形との問題にも関係して、ファサードの扱いは建築の本質にかかわる重大な課題である。〈前川道郎〉

ファージ ⇨バクテリオファージ

ブアジェイリ Vance Bourjaily（一九二二―　）オハイオ州生まれのアメリカの小説家。第二次世界大戦中の一青年に訪れるモラルの崩壊を描いた処女長編『わが生涯の終わり』（一九四七）で文壇に登場し、大作『汚されしもの』（一九五六）、半自伝的作品『青春の告白』（一九六〇）、『ケネディを知る男』（一九六七）などでその地位を確立した。田園生活を扱ったノンフィクション的作品もいくつかあり、また雑誌『ディスカバリー』の編集に携わったこともある。〈原川恭一〉

ファシェル Fasher アフリカ北東部、スーダン西部の都市。ダルフル州州都。チャド国境に近いダルフル山地東方の砂漠に位置する。人口五万一九三二（一九七三）。古くからの隊商の基地で、首都ハルトゥームに通じる鉄道の起点は南方二〇〇㌔のニヤラに譲ったが、スーダンとチャドを結ぶ幹線道路に沿う交通の要衝である。アラビアゴムなどを集散する。〈端　信行〉

ファシスタ党――とう ⇨ファシスト党

ファシスト党――とう Partito Nazionale Fascista イタリアの政党（一九二一～四三）。正式には「国民ファシスト党」のことで、第二次世界大戦末期の「共和国ファシスト党」を含まない。この党は、第一次世界大戦への参戦運動の継承と普及、すなわち戦争への国民総動員を目ざし、全体主義的独裁の核となった。

〔「戦闘ファッショ」からファシスト党へ〕 一九一九年三月に結成された最初のファシズム団体「戦闘ファッショ」は、反政党、反議会政治を目ざすとともに加盟者の自発的運動そのものを目ざした。この加盟者が二〇年末の約二万人から翌年末の約二五万人に飛躍的に増加したのは、ポー川流域への農村ファシズムの登場によるもので、彼らは、ムッソリーニの統制を超える自立的勢力として地元の農業資本家や地主から財政的援助を受けていた。このような勢力を統制する手段として、ムッソリーニが考えたのが党の結成である。他方、農村ファシズムの指導者たちにとっても、政権奪取のためにはムッソリーニの中央における政治活動を必要とした。党は、ムッソリーニと地方ボスの妥協の産物であった。二一年一一月の「戦闘ファッショ」第三回大会で、国民ファシスト党が誕生した。大会は、党の指導機関を選出し、地方連合支部などの下部機関への指導体制を定めたが、下部機関の自主性が強く、中央の集権能力はきわめて限られていたので、党は自立的な地方組織の連合体にすぎなかった。この党を他の伝統的政党から区別するものは、武装された党という点であり、合法と非合法の両面にまたがるその活動形態であった。

〔ローマ進軍以後〕 このような党勢力を背景に、ムッソリーニは地方権力をしだいに確保しながら、議会内外の政治取引を通じて権力への接近を模索する。一九二二年一〇月のナポリ大会のあと、党は「ローマ進軍」を組織した。同月二八日、国王はファクタ首相の提出した戒厳令署名に応じないで、翌日ムッソリーニを首相に任命した。ムッソリーニは、組閣後まもなくファシズム大評議会と国防義勇軍の創設を党に命じた。前者は、党の最高機関として制定され、指導部人事を選挙制から任命制に変える役割を果たし、後者は、アナーキーになりがちな武装行動隊を党に服従する軍隊として再編成したものである。とくに前者の半国家的性格によ

ファシスト党　1922年10月28日，ファシストのローマ総動員（「ローマ進軍」）の翌日，ムッソリーニは首相に任命され，30日ローマに到着した。左からバルボ，デ・ボーノ，ムッソリーニ，デ・ベッキ，ビアンキ

り、これらの機関制定は党と国家の対立を党内に引き起こした。二三年以後長年にわたって、ファリナッチ Roberto Farinacci（一八九二―一九四五）に代表される非妥協派と、ロッコ Alfredo Rocco（一八七五―一九三五）やボッターイ Giuseppe Bottai（一八九五―一九五九）、あるいはナショナリストといった異質の集団からなる穏健派との間に主導権争いが生じた。非妥協派は、ファシズム革命推進のために自立的な党とスクワドリズモ（武装行動主義）の必要性を主張し、穏健派は、国家のなかに党を吸収してテロリズム（武装行動主義）に終止符を打つことを求めた。ムッソリーニは最初、後者の側にたって前者を抑えようとしたが、その後、前者に助けられて独裁の樹立を決心するようになる。

〔ファシズム体制期〕 一九二五年二月に党書記長に任命されたファリナッチは、強権を振るって異端分子を排除し、軍事的規律に基づく中央集権党の建設に着手した。しかし、彼の党はムッソリーニからの自治を目ざしたから、一年後にファリナッチは解任された。二六年から三一年にかけて非妥協派は追放され、党の政治的自治は否定され、国家への党の従属が確立された。二六年の党規約は、党内の選挙制をすべて廃止し、大評議会に党の指導機能を与え、党とファシズムの最高首脳としてのムッソリーニの地位を決定した。その後の規約改定は、この方向をさらに強めた。全体主義的局面を代表したスタラーチェ Achille Starace（一八八九―一九四五）書記長の時代（一九三三～三九）に、党は国家のために大衆の同意と支持を吸い上げる毛管組織になり、宣伝・教化の機能に専念することになった。党員数は三〇年の約一〇〇万から三九年の二六三万に増大、著しく肥大化して大衆党となったが、党は非政治化あるいは儀式化と官僚主義化を強めるとともに、ムッソリーニの個人独裁の道具の性格を強めたため、体制のエリート育成にも無能力であった。四三年七月ファシズム大評議会でムッソリーニの不信任が可決され、バドリオ政権によりファシスト党は解散させられた。

〈重岡保郎〉

■ファシズム研究会編『戦士の革命・生産者の国家』（一九八五・太陽出版）

ファシズム fascism（イギリス） fascismo（イタリア） Faschismus（ドイツ）

第一次世界大戦直後の一九二〇年代初頭から第二次大戦終結時点の一九四五年までの約四半世紀間にわたり、世界の多くの地域に一時期出現した、まったく新しいタイプの強権的、独裁的、非民主的な性格をもった政治運動、政治・経済・社会思想、政治体制の総称。

ファシズムは、イタリア、ドイツ、日本をはじめとして、スペイン、オーストリア、ポルトガル、ルーマニア、ユーゴスラビア、ハンガリー、ノルウェー、スウェーデン、イギリスなどの西・東欧諸国、またアルゼンチン、チリ、ブラジルなどの南米諸国においても発生した。これらの国々のうちで、とくにイタリア、ドイツ、日本の三国がファシズム国家の典型とされるのは、一つには、その地において強力なファシズム政権が確立されたこと、さらにより重要なことは、これら日独伊三国が、第二次大戦の一方の当事国として、イギリス、アメリカ、フランス、ソ連などのいわゆる民主主義陣営を敵に回して、それらの国々と戦ったからである。

では、この世界史上まったく新しいタイプの運動・思想・体制をなぜファシズムとよぶのか。それは、このような運動・思想が最初にイタリアのムッソリーニによって提唱され、かつイタリアにおいてファシズム体制が確立されたからである。ファッショ fascio という語は、イタリア語の「束」を意味し、そこから転じて、「団結」「結束」を表す語として用いられるようになった。第一次大戦中、参戦派のサンジカリストたちが「革命的参戦行動ファッシ」という名称の組織をつくり、戦後、ムッソリーニがこの組織を継承して「戦闘ファッシ」とし、一九二一年には「国民ファシスタ党」という政党に改組した。これ以後、ファシズムということばが、独裁的・非議会主義的・反共主義的な運動・思想・体制の総称として広く一般に用いられるようになった。

〔発生因〕 ファシズムが第一次大戦後のイタリアやドイツにおいて発生した理由は二つ考えられる。一つは、大戦後の未曽有（みぞう）の経済的危機とそれによる政治的危機の出現という問題である。もう一つは、大戦後、世界史上初めてロシアに社会主義国家が誕生し、各国に脅威を与えたことである。イギリスやフランスよりも二、三世紀遅れて近代国家を形成したイタリアやドイツは、植民地分割競争に乗りおくれたため当然にその経済的基盤が弱く、大戦の影響をまともに受け、深刻な失業、貧困、インフレ問題などは、国家的存立はもとより、中産階級以下の人々にとって深刻な死活問題ともなった。ファシズム運動が、政治運動、思想運動としては排外主義的なナショナリズムを前面に掲げ、経済的には、先進帝国主義列強の非を鳴らしつつ国家の強力なリーダーシップによる経済成長と国民生活の安定を図ると称して「下からの革命」を唱え、中産階級を主体に――ファシズムを中産階級の行動や思想から説明するファシズム論はこれに起因する――広く労働者階級までをも組織に組み入れることに成功したのは、第一次大戦直後の異常事態を抜きにしてはとうてい考えられないであろう。

ところで、資本主義経済の危機を解決する方法としては、ファシズムの道のほかに社会主義への道があった。事実、そのようなものとしてロシアにおいてはレーニンの指導する社会主義政権が樹立された。このことは、各国の労働者階級を勇気づけ、世界的に社会主義運動や労働運動が高揚する。しかし、ファシズム運動の指導者たちは、階級闘争の激化は国家的破滅につながるものとしてこれを厳しく弾圧した。ファシズムが民族主義的性格を色濃くもち、反資本主義、反議会主義、反民主主義を唱えるとともに、反社会主義、反共産主義を掲げて、一党独裁による極端な国家主義（ステイティズム）を強調したのは、ひとえにソ連社会主義の自国への影響を恐れたためであったといえよう。このようにみると、ファシズムと社会主義は、一九世紀末以降とくに顕在化した資本主義の矛盾とその全般的危機に対する対応策として出現したものであることがわかる。しかし、この両者はまったく違った道を歩み、社会主義国家は民主主義社会の建設を目ざし、ファシズム国家は、個人の自由や民主主義を否定する全体主義的な国家体制の確立を追求し、そのことは帝国主義的侵略主義と結び付き、結局、この両者は第二次大戦において対決することになる。

〔ファシズムの性格〕 ドイツでは、ファシズムという語よりもナチズムという語が用いられ、日本では天皇制ファシズムあるいは全体主義という語が用いられたように、ひと口にファシズムといっても、三国におけるファシズムの内容はかならずしも同じではないが、共通する性格について次に述べる。

(1)国家による経済の統制・監督　ファシズム運動は、そもそも自由主義的な資本主義経済の危機を契機に発生したこともあって、ファシズムにおいては国家による経済の統制・監督という思想が強い。ムッソリーニは、このような干渉主義を混合経済とよび、そのような政治・経済体制を資本と労働の協同体方式によって建設することに全力を注いでいる。またドイツの政治学者カール・シュミットは、ファシズム国家を全体主義国家 totalen Staat と規定し、この国家の特質は「国家が社会（経済）を呑（の）み尽くす」点で全体的であると述べている。もっとも一九世紀末以来、資本主義国家においても福祉国家への転換が図られ、国家や政府の指導・監督がしだいに強化されつつあったし、社会主義国家においては計画経済の下に経済は完全にコントロールされている。この点については、三つの政治・経済体制は一見似通ってみえる。しかし、ファシズム国家の場合には、市民的自由や労働者の権利はまったく否定され、個人の経済活動も国家利益に従属させられているという点で、資本主義国家や社会主義国家の場合とその様相を大きく異にしているといえる。

(2)狂信的民族主義　ファシズムの第二の特質は、その偏狭な狂信的民族主義にある。ムッソリーニは、ファシスタ党が政権をとる「ローマへの進軍」を前にして、民族の概念がマルクス主義的な階級の概念よりも優位しているとの演説を行った。彼によれば、国家とは民族が政治制度において具現化されたものであった。彼は、ファシズム国家は「下から形成・組織された国家」であると述べ、国民に対して国家への民族的統一を呼びかけ、階級闘争による国家分裂の行動を否定している。他方、フランス革命当時にあってもなお三〇〇を超える領邦国家に分裂していたドイツ人にとっては、イギリスやフランスのような近代的統一国家の形成は、いわば民族の悲願ともいうべきものであった。統一国家＝帝国（ライヒ） Reich と民族（フォルク） Volk という概念がドイツ民族統一のための長年にわたる合いことばとなったのはこの理由による。ここから「ゲルマン民族の優越性」「血の純潔」「血と大地」「反ユダヤ主義」というドイツ特有の民族概念が生まれた。ドイツ人によれば、ユダヤ人は世界中の国々に潜入して資本主義的利益を獲得するために狂奔し、他方では、ユダヤ的マルクス主義は、インターナショナルな楽園をこの地上に創出すると称して民族の統一を妨げている、というわけである。ナチ党がユダヤ人を大量虐殺し、またユダヤ人マルクスの唱えた社会

主義や共産主義を憎悪しこれを厳しく弾圧したのは、ドイツ人特有の民族概念を知ることによって初めて解明できる。

この点、日本における民族概念の政治的機能は、イタリアやドイツの場合と異なる。日本では、国家は有史以来、大和民族というほとんど単一の民族で構成され、その民族が天皇を頂点として統合されてきたと考えられていた。日本において、「下からの革命」という運動が欠如しているのはそのためである。そして、こうした民族概念は、明治維新以後の「富国強兵策」の時代から十五年戦争期にかけて、天孫民族による世界統治こそ神聖至上なりとする「八紘一宇」の思想にまで高められ、それは国民意志を統合する最重要な精神的契機となり、明治以来のアジア侵略や帝国主義戦争を正当化する思想となったのである。もっとも民族的使命感を強調する思想は、一五、六世紀以来、帝国主義的植民地略奪を遂行しつつあった西欧人の間でも、「白人の責務」「キリスト教国民による未開人の教化」という形で唱えられたが、ファシズムの場合には、偏狭な民族主義が極端な形にまで進んだものといえよう。

(3)反自由主義・反議会主義・反マルクス主義　ファシズムは社会主義と異なり、資本主義そのものは否定しないが、その政治思想や政治制度には反対する。そのことが一見ファシズム国家は反資本主義的性格をもつと思われがちだが、ファシズムの真の敵はマルクス主義、社会主義国家である。ではなぜ、ファシズムは反自由主義、反議会主義の立場をとるのか。それは、シュミットによれば、議会制民主主義は、本来敵であるべき社会党や共産党の存在を許しているためだ、という。また二〇世紀に入って労働者階級の力が強大となったが、敵を敵として扱わず、討論相手にしているような議会制民主主義のやり方では、とうていこの強大な新しい社会階級に敵対できない、したがって、いまや議会主義ではなく一党独裁によって階級敵に対抗し、これを絶滅しなければならない、というわけである。こうして、ファシズムは、いずれの国においても社会主義運動や階級闘争を厳しく弾圧したが、そのことは、日本の「治安警察法」や「治安維持法」の適用にもみられるように、市民的自由や議会制民主主義などの一般的民主主義までも全面的に否定することとなり、ここに、全体主義的なファシズム国家体制が確立されたのである。

〔ファシズムの成立と形態〕(1)イタリアのファシズム　ファシズム国家という点でもっとも典型的なのはイタリアの場合であろう。なぜなら、そこでは、資本主義の危機を乗り越えるために、国民のナショナリズムに訴えて大衆的支持を得ることを目ざし、政治と経済の緊密な協同・結合を図ってファシズム体制をつくりあげようと試みているからである。ムッソリーニは、一九二二年の政権獲得後ただちに、資本家と労働者双方の職業組合を結合し、経済的諸関係の全体的規制と生産的統一秩序のための方策を決定できる協同体 corporazione 方式により、資本主義国家を協同体国家へと改編しようとする。ここに、ファシズムを、資本主義の危機に際しての独占資本家層による新しいブルジョア独裁の変種とみるコミンテルン規定が生まれた——と試みている。この協同体では、頂点に「協同体全国協議会」があり、その下部に二二の協同体が設けられている。各協同体はそれぞれの生産部門の経済活動を監督・指導する。「全国協議会」は、生産の私的イニシアティブは尊重しつつ、それが協同体において全経済の利益、国家の利益と調和するように図る権限を有する。この協同体国家への改編は一九三四年二月に協同体に立法権が与えられることによって完成した。こうしてムッソリーニは、資本主義の矛盾とコミュニズムからの脅威を克服したと称する強大な国家建設と世界進出の夢を結合させることによって、一九三三年一月に政権を獲得したドイツ・ナチズムと連帯を強めつつ、エチオピア侵略、国際連盟脱退、日独伊三国同盟の締結を経て、枢軸国の一員として第二次大戦に参戦するのである。

(2)ドイツのナチズム　ナチ党は、一九二三年のミュンヘンでの一揆に失敗して以後、議席拡大による合法的な権力獲得の道を追求し、敗戦によって失われたかつてのドイツ民族の栄光を回復するという旗印を掲げ、大量の失業軍人や不安定な状況に置かれていた広範な中・小生産者層を結集し、また「国民社会主義ドイツ労働者党」という紛らわしい党名によって労働者階級の一部をも引き付けることに成功した。二九年に始まった世界大恐慌の出現は、ナチ党の党勢拡大に弾みをつけた。三二年の選挙ではついに第一党の地位についたが、その狂信的政治信条を恐れた支配層は、ヒトラーに政権を移譲することをためらった。しかし、三〇年代の深刻な政治的・経済的危機を解決する能力を失った支配層は、コミュニズムの脅威よりもファシズムをよしとして、ついに三三年一月にヒトラーに政権を渡した。この時点では支配層は、ナチ党をコントロールできるものと楽観視していたようである。しかし、首相ヒトラーは、ワイマール憲法第四八条に規定された大統領の非常大権を有効に活用して組合運動や政党活動を抑圧し、三三年三月二四日には「民族と帝国の危難排除のための法律」を制定してたちまちいっさいの権限をその手中に収めた。この法律により、ワイマール共和国は崩壊し、以後、ヒトラーは、「歓呼」と「喝采」という方式によって彼の命令と意志を無条件に支持する全体主義的独裁体制を確立し、第二次大戦への道を目ざして戦争準備を始めることになる。

(3)日本のファシズム　日本のファシズムは「天皇制ファシズム」とよばれるように、明治憲法体制の下で長年かけてつくりあげてきた国民の天皇信仰を背景に、軍部・官僚による「上から」の強権的国家体制を形成して十五年戦争を遂行したという点で、「下から」の革命を目ざして国民を組織し、ファシズム政権を獲得したイタリアやドイツの場合と様相を異にする。この点をめぐって日本はファシズム国家ではなかったと主張する者もいる。しかし、この時期の日本でも国家による経済の監督・統制の強化、「八紘一宇」の観念による侵略的民族主義の高唱、反自由主義・反民主主義・反議会主義・反社会主義などの思想教化、さらには国内的には国家総動員法の制定（一九三八）、大政翼賛会・大日本産業報国会の結成（一九四〇）などを通じて機構的に天皇制ファシズム体制が確立され、国際的には満州侵略（一九三一）、国際連盟からの脱退（一九三三）、日独伊三国同盟の締結（一九四〇）などを断行した経過をみると、日本がファシズム国家であったことは間違いない。

(4)その他のファッショ体制　一九二〇、三〇年代には、主要三国以外にも、ファシスト政権やファシズム運動が各国で相次いで出現している。たとえば一九二〇年にはハンガリーにホルティ政権、二八年にはポーランドにピウスツキ政権、三三年にはポルトガルにサラザール政権、三四年にはオーストリアにドルフス政権、三六年にはスペインにフランコ政権、四〇年にはルーマニアにアントネスク政権、また第二次大戦中には、チリ、ブラジル、アルゼンチンなどにファシスト政権が誕生した。そのほか、政権獲得までには至らなかったが、イギリスのモズリー一派の「イギリス・ファシスト同盟」、アメリカの「アメリカ・ナチス党」、フランスのモーラスらの「アクシオン・フランセーズ」などのファシズム運動が、またカナダ、ベルギー、オランダ、ノルウェー、フィンランド、インドなどでもファシズム運動が出現したのである。こうした政権や運動は、第二次大戦後ほとんどその姿を消したが、フランコ政権のように戦後に至ってもなおしばらく生き残った政権もあった。

〔戦後のファシズム問題〕第二次大戦での日独伊三国の敗北によりファシズム国家はひとまずこの地上から姿を消した。しかし、ファシズムの運動や思想が民主主義への挑戦・否定を含むものであったということからすれば、今日においてファシズム再現の危険性がまったくなくなったとはいえない。戦後はファシズムという用語よりも全体主義ということばが用いられているようだが、たとえば一九五〇年代前半における米ソの対立激化のなかで、アメリカはスターリン体制を全体主義として非難し、他方ソ連は、当時、思想・信条の自由を抑圧していたアメリカのマッカーシズムを全体主義と攻撃した。第二次大戦が、人権と自由の観念が希薄であり、民主的な政治制度の確立がきわめて不十分であった日独伊三国によって引き起こされたことを考えれば、それは、今日の時点においてファシズムの再現を防ぐ方法は何かをわれわれに教えているといえないだろうか。〈田中　浩〉

■山崎功著『ファシズム体制』（一九七三・御茶の水書房）▽山口定著『現代ファシズム論の諸潮流』（一九七八・有斐閣）▽東京大学社会科学研究所編『ファシズム期の国家と社会』全八冊（一九七八～八〇・東京大学出版会）▽田中浩著『全体主義』（『経済学大辞典　第Ⅲ巻』所収・一九八〇・東洋経済新報社）

ファショダ事件　——じけん　Fashoda incident　一八九八年、スーダン南東部のファショダ（現コドク Kodok）で、イギリス、フランス両勢力が衝突した事件。一九世紀末、ヨーロッパ列強によるアフリカ分割が激化し、イギリスはスーダンを占領、カイロとケープ・タウンを結ぶ南北縦断政策を進めた。一方、西アフリカの大半を手中にしたフランスは、アフリカ

東岸のジブチへ抜ける大陸横断政策をとり、マルシャン将軍を派遣した。一八九八年彼はファショダに到達し、急を聞いて駆けつけたイギリス軍のキッチナー将軍と対峙した。イギリス軍はフランス軍の撤退を求めたが受け入れられず、結局両国の外交問題に発展、あわや開戦という瀬戸際まで追い込まれた。しかし、フランスの譲歩でマルシャンは撤退し、翌九九年スーダンはイギリスとエジプトの共同統治となり、フランスはチャド湖一帯を獲得した。この事件はヨーロッパ列強によるアフリカ分割の最後の頂点となった事件とされる。〈青木澄夫〉

ファージョン Eleanor Farjeon（一八八一―一九六五）イギリスの女流児童文学作家、詩人。小説家を父にもち、芸術的雰囲気豊かな家庭で教育を受ける。詩人デ・ラ・メアとエドワード・トーマスから大きな影響を受け、一九一四年、ロンドンの地名をもじったナンセンス詩を雑誌に連載して好評を博し、地歩を築いた。戦場の一兵士を慰めるための牧歌的恋物語『リンゴ畑のマーティン・ピピン』（一九三一）は子供にも読まれた。以後、『イタリアののぞきめがね』（一九三六）、『としとったばあやのおはなしかご』（一九三一）ほかを出して一九二〇年代の代表的児童文学作家となった。しばしば伝承文学の形式を借り、響きのよい文体で、ユーモア、ナンセンス、詩情に富む物語を子供たちに送った。『ムギと王さま』（一九五五）でカーネギー賞、国際アンデルセン賞を受賞。〈神宮輝夫〉

■石井桃子訳『ファージョン作品集』全七巻（一九七〇～八六・岩波書店）▽松岡享子訳『町かどのジム』（一九六四・学習研究社）▽神宮輝夫編『銀色の時――イギリスファンタジー童話傑作選』（講談社文庫）

ブーア人 ――じん Boer 南アフリカ共和国のオランダ系白人。ブール人ともいい、現在はアフリカーナ Afrikaner とよばれている。同国の白人四九〇万人（一九八五）のうち約六〇％を占める。歴史的には、一七世紀中ごろオランダ東インド会社がつくったケープ植民地に、本国オランダから入植した移民で、農民（ブーア）出身が多かったことからこうよばれる。一九世紀初めのイギリスのケープ占領とイギリス支配に反対して一八三五年大挙して内陸に移動（グレート・トレック）し、トランスバール共和国とオレンジ自由国の二つのブーア人共和国を建国した。一八八〇年代トランスバールで金の富鉱が発見されたことを契機に、イギリスが同国の併合をねらってブーア戦争を起こし、ブーア人共和国は敗れて、一九一〇年イギリスは南アフリカ連邦を結成。しかし連邦結成後もブーア人のイギリス人に対する反感は強く、ブーア人の文化の保存、権利の確立のため闘った。一九一〇年代の秘密結社ブルーダーボンド（同胞団）の結成はブーア人政党である国民党の支持基盤となり、二五年には彼らの言語であるアフリカーンス語（一七世紀オランダ語を母体として英語、ドイツ語、フランス語を取り入れた人造語で、南アフリカでのみ通用）を公用語として認めさせた。またブーア人は、プロテスタント系のオランダ改革派教会を信奉し、その強固な選民思想から有色人種を蔑視した。このことは、四八年に国民党が選挙に勝ち政権の座について以後、一連のアパルトヘイト（人種差別）政策を実施し、国際社会の非難を浴びながらも今日に至っている。経済的にはブーア人は農場経営に従事していたが、ブーア戦争で農場が戦場化したため都市に流出し貧窮白人層（プアー・ホワイト）となり、彼らを救済することが人種差別政策の目的でもあった。鉱工業の支配権を握るイギリス系白人に対し、政府、公社などの国家資本を通して対抗し、政治上と同時に経済上の支配権を握ろうとしている。〈林　晃史〉

ファース John Rupert Firth（一八九〇―一九六〇）ロンドン学派言語学の創始者。ロンドン大学オリエント・アフリカ研究所で、イギリス初の一般言語学教授となる（一九四四～五六）。英国フィロロジー学会会長（一九五四～五七）。その学説は、①意味論における「スペクトル」と「場面の脈絡」、②音韻論における「プロソディー分析」に集約される。①では、言語を内容と表現に二分せず全一体としてとらえ、それを言語学というプリズムを通して音声、音韻・統語、場面などの数個のレベルに「分光」して扱うことを主張、言語の意味の全体的な把握は場面の脈絡において初めて可能であるとした。これは即物的な場面の脈絡でなく、分析のための抽象的枠組みである。②では、子音、母音など分節音の範囲を超えて音節、形態、文などと関連して機能する、強勢、音高、リズムなどを音韻分析の基礎に据えた。著書に『*Speech*』（一九三〇）、『*The Tongues of Men*』（一九三七）があり、数多い論文の大部分は『ファース言語論集』Ⅰ・Ⅱ（大東百合子訳註・研究社出版）に収録されている。〈大東百合子〉

■石橋幸太郎他編『現代英語学辞典』（一九七五・成美堂出版）

ファース Raymond William Firth（一九〇一―　）ニュージーランド生まれの社会人類学者。ニュージーランドで経済学、イギリスではマリノフスキーの下で人類学を学んだ。一九四四～六八年までロンドン大学の人類学の教授を務め、多くの弟子を育成した。学位論文『ニュージーランド・マオリの原始経済』（一九三九）は、おもに文献研究によるものであるが、マオリ族の経済活動に焦点をあてながら、それが他の社会現象と深く結び付いていることを明示した大著である。一九二八年から一年間、南太平洋ソロモン諸島内のポリネシア離島ティコピアで詳細な調査を行った。『我らティコピア人』（一九三六）は、親族関係を中心に記述されたきわめて精緻な研究論文である。ティコピアに関してはその後も調査を続け（一九五三、一九六六）経済、宗教、口唱など多岐にわたって、ティコピア文化を解明する著書が刊行されている。そのほかマレー半島の漁村、西アフリカ、ニューギニアでも調査研究を行った。業績としては、一つは上記のような実証研究を踏まえて、経済人類学の理論的発展に貢献したことであり、一つは親族組織の研究、とくに選択的出自集団の存在に着目し、その後の双系制ないしは選系制研究の道を開いたことであろう。〈青柳まちこ〉

■須山卓訳『民族学入門』（一九四三・慶応書房）

ファース・オブ・フォース橋 ――きょう Firth of Forth Bridge イギリス、スコットランドのエジンバラに近いフォース湾を横断する鉄道橋。橋梁史上一九世紀の記念碑とされる名橋である。並行して二つの長大橋があり、普通は古いほうをさす。もう一つの吊橋はフォース道路橋とよばれ区別されている。ジョン・ファウラーおよびベンジャミン・ベーカーによって架設され、一八八九年に完成した。ゲルバートラス形式で、最大支間は約五二〇メートルである。従来の錬鉄にかえて鋼材を使用し、主要圧縮部材をパイプ状にするなど、画期的な創意が盛り込まれており、現在も実用に耐えている。〈堀井健一郎〉

ファースト Howard Fast（一九一四―　）アメリカの小説家。ニューヨークの貧しいユダヤ系労働者の家庭に生まれ、種々の職を転々としたのち、一七歳で小説を書き始める。独立戦争を扱う『自由をもとに』（一九三九）、追い詰められるインディアンの物語『最後の辺境』（一九四一）、トマス・ペインの生涯を描いた『市民トム・ペイン』（一九四三）、南北戦争後の黒人の苦闘を描く『自由の道』（一九四四）、ローマ奴隷の反乱を扱う『スパルタカス』（一九五一）など、抑圧される側にたつ歴史小説が多い。共産党員作家として、一九五三年スターリン平和賞を受賞するが、五七年離党、同年離党の経緯を語る『裸の神』を発表。その後は移民文学隆盛の風潮にのり、イタリア・フランス系移民一家の連作大河小説『移民』（一九七七）、『第二世代』（一九七八）、『エスタブリッシュメント』（一九七九）、『遺産』（一九八一）、『移民の娘』（一九八六）などを書き、ベストセラー作家として返り咲いた。史書『ユダヤ人』（一九六八）もある。〈寺門泰彦〉

ファスナー fastener テープ状の開閉式留め具、スライド・ファスナーの略。「チャック」「ジッパー」の呼び名がある。左右のテープの内側に務歯（かみ合せ部分）を並べてつけ、スライダー（引き手）を上下して開閉する。アメリカで一八九一年に発明され、改良を重ねて今日の形に近いものが完成したのが一九一七年。日本では一九三四年（昭和九）に国産化されて以来、日本製ファスナーは輸出産業の一つになるまでに発展している。第二次世界大戦後は金属ファスナーにプラスチック・ファスナーが加わり、色数も種類も豊富になった。特殊なものでは、スライダーが外れて左右に分離するオープン・ファスナー、務歯の見えないコンシール・ファスナーがある。〈平野裕子〉

ファスビンダー Rainer Werner Fassbinder（一九四六―八二）西ドイツの映画監督、俳優。バイエルン州のバート・ウェリショーフェンに生まれる。一九六七年、ハンナ・シグラらとともにミュンヘンの前衛劇団の俳優となり、六九年に『愛は死よりも冷たい』で映画に進出、「ニュー・ジャーマン・シネマ」を代表する監督の一人となった。初期の『出かせぎ』（一九六九）など日常生活から生じる狂気を扱った内容から、『エフィ・ブリースト』（一九七四）のような文芸作品を経て、ドイツの現代社会史を踏まえた『マリア・ブラウンの結婚』（一九七九）などまで、旺盛な創作力で映画とテレビ映画あわせて四一本を残した。テレビでは『ベルリン・アレクサンダー広場』が名高い。演劇やテレビでも演出家、俳優として活躍した。〈出口丈人〉

ファセリア 学 *Phacelia* ハゼリソウ科の一年草または多年草。主として北アメリカに一〇〇種が分布する。よく知られるタナケティフォーリア（和名ハゼリソウ）*P. tanacetifolia* Benth. は茎が直立し、高さ〇・三～一・二メートル、葉は大きく、羽状に中裂する。六～九月、淡青色で筒状の小花を穂状につける。またカンパヌラーリア *P. campanularia* Gray は高さ一五～二〇センチ、よく分枝して叢生する。花は径二センチ、鐘状で紺青の色彩が美しい。欧米では花壇に利用されるが、高温多湿の日本では戸外での栽培は無理で、ガラス室かフレーム内で育てる。〈植村猶行〉

ブーア戦争 ―せんそう Boer War 一九世紀末、南アフリカの産金国であるブーア人のトランスバール共和国の併合を企てて、イギリスが起こした戦争。ブール戦争、ボーア戦争、南ア戦争ともよばれ、第一次戦争、第二次戦争に分かれる。一八七七年、トランスバールの財政的危機とドイツの介入を恐れたイギリスは、同国を併合した。これに対しブーア人は一八八〇年団結して蜂起し、翌八一年マジュバヒルでイギリス軍を破り、同年四月プレトリア協定によって主権を回復した（第一次戦争）。ついで、一八八六年トランスバールで金の富鉱が発見されると、イギリスのケープ植民地首相セシル・ローズはその併合を企て、友人ジェームソンに命じて、九五年同国に侵入させたが失敗し、ローズは責任をとり政界から引退した。しかし、チェンバレン・イギリス植民地相、ミルナー・ケープ植民地長官は併合をあきらめず、露骨な内政干渉を始めた。クリューガー・トランスバール共和国大統領は戦争を避けるため譲歩を重ねたが、ついにオレンジ自由国と軍事同盟を結び、一八九九年一〇月イギリスに宣戦を布告した（第二次戦争）。

ブーア戦争 出撃するトランスバールのブーア軍

開戦当初イギリス軍約一万五〇〇〇、ブーア軍約四万で、戦闘の第一段階ではイギリス軍はブーア人の民兵に悩まされた。イギリスはロバーツを総司令官に、キッチナーを参謀総長に任命して本国から援軍を送り、一九〇〇年三月にはオレンジ自由国の首都ブルームフォンテーンを、六月にはトランスバール共和国の首都プレトリアを占領した。しかしその後、ド・ベットやド・ラ・レイなどの率いるブーア人のゲリラ軍が反撃に出たため、キッチナーは、ゲリラの根拠地を壊滅すると称して、非戦闘員の家屋や田畑を焼き払う掃討作戦を展開した。このため世界の民衆の同情はブーア人側に集まり、イギリス本国でも反戦の声が高まった。この戦争は帝国主義侵略戦争の典型とされ、特派員として派遣されたJ・A・ホブソンは取材をもとに『帝国主義論』を書いた。一九〇二年、ブーア人側はついに降伏し、フェリーニヒング条約によって、ブーア人共和国はイギリスの直轄植民地となった。〈林 晃史〉

ファッション fashion 生活行動のさまざまな面で、ある一定の時期に、ある価値観に基づく共有の現象が、少数の集団から多数の集団へと移行していく過程の総称。すなわち、思想、言語、芸術などの無形のものから、衣食住などの生活様式にまで表れる「はやり」のこと。しかし、この意味での「はやり」は、一般には服飾のうえでもっとも顕著にみられるために、ファッションは「服飾流行」と訳される場合が多い。ファッション・ビジネスの立場からは、ある特定の期間において人気を得、一般に受け入れられ着用されたスタイル、さらには、服飾それ自体の同義語としても用いられる。

〔語源、類語〕 作り、できぐあいなどを意味するラテン語ファクティオ factio が語源。フランス語のファソン façon となり、さらに英語のファッション fashion となった。今日、本来の英語でのファッションには多様な意味がある。第一義は「流行」であり、「はやりの型」であり、以前はとくに上流階級の慣習、様式などをさしていた。第二に、語源本来の意味から「仕方」「方法」「様式」などをさし、さらには「作り」「型」などの意味もある。

ファッションの同義語として、フランス語ではモード mode（イタリア語モーダ moda、ドイツ語モーデ Mode）を使う。また、ボーグ vogue は英語、フランス語ともに流行の意。「流行の」「はやりの」「流行に敏感な」などの意味をもつファッショナブルは、ファッションからの派生語であり、これに相当するフランス語はア・ラ・モード à la mode である。また比較的短期間の流行を表す英語にはファッド fad、ブーム boom などの語がある。流行が行き渡り、新鮮さが失われると流行遅れとなる。しかし、それが定着し、恒続化すると慣習（カスタム custom）として生き残る。

〔ファッションの本質〕 衣装はもともと人間そのもの、もしくは人間と一体のものであるが、ファッションは個人的意思表示である以前に、フックス E. Fuchs がいうように「主調となる世界の概念の表現」、つまり社会の徴表であり、記号である。この個人と社会の矛盾と対立のなかに、ファッションの本質が潜んでいる。個人は自己を主張し、変化や新しさへの勇気を好む半面、慣習に従い、それを模倣することによって社会から逸脱することを避け、社会に順応しようとする。

〔ファッションの構造〕 平凡なありふれたもののなかで人は満たされなくなり、そこから脱け出して自己の存在を明確にしたいと願うようになる。孤立化への欲求である。そして新しさが求められ、ファッションが芽生える。この新しいスタイルが認知され、さまざまな条件のもとで共感をよび、人々はこれを模倣しようとする。この行動がさらに拡大していったとき、つまり結合化への欲求がおこったときに、ファッションが成立する。しかし、一つのスタイルがファッションとなり採用者が広がってしまうと、ふたたび孤立への欲求が次の新しいスタイルを求め始める。このときに、先のファッションは流行遅れとなり、やがて廃れていく。

この対立する二つの心理的欲求を、ジンメル G. Simmel は「同調化と孤立化」、ラング K. G. F. Lang は「同一化と差別化」としてとらえ、ファッションの重要な心理的支柱としている。これら二つの要因だけではなく、より複雑な心理的要因によるとするのは、フリューゲル J. C. Flügel、ランドバーグ G. A. Lundberg、ケーニッヒ R. König などである。さらに、こうした心理学、社会学的対象としてのみならず、今日のようにファッションが流通過程に乗った場合では、経済学的見地からの論理解明も試みられている。

また、ファッションを記号学的に分析したロラン・バルト R. Barthes は、『モードの体系』（一九六七）のなかで、モードの構造を書かれた衣装、写真となった衣装、実際に着用された衣装という三つのレベルでとらえた。

〔ファッションの周期〕 いずれにせよ、ファッションは発生→伝播・拡大→頂点→衰退→消滅というプロセスを通るという点において、一つのパターンに集約できる。このプロセスをファッション・サイクル fashion cycle（ファッションの周期）とよぶ。しかし、ファッションは非常に複合的な社会現象であって、このサイクルの発生から消滅までの、正確な時間的長さ（ファッション・ライフ fashion life）を知ることはむずかしい。今日、ファッション・ライフは、年々短縮化傾向をたどっている。

〔ファッションの働き〕 人間は生理的、物理的欲求が満たされれば、それで満足するものではなく、美的、精神的、社会的欲求も満たそうとする。とりわけ衣装は、人間そのものの表現ともいえるものであるからなお、美的、精神的、社会的充足感を求める。その具体例は、枚挙にいとまがないほどである。たとえばロココ時代の極端にスカートを張らせたフープ（パニエ）も、一九〇〇年のS字型に不自然に曲げられた女性シルエットも、その時代性の明確な表現なのであった。どの時代にも、その時代におけるファッションを人々はもっとも美しく、かつまたもっとも論理的な衣装表現であると確信していた。ネクタイ、狭いタイト・スカート、ハイヒール、冬のナイロンストッキングなどの非活動性は、機能主義の今日にもまぎれもなく存在している。

このように、もともと美的、精神的、社会的機能が強く求められる服飾において、ファッションは精神に刺激を与え、活性化させる活性剤

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com